

第七十三回帝國議會
衆議院

商法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第七回

付託議案

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

會議

昭和十三年三月十一日(金曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野村 嘉六君

理事西田 郁平君 理事仲井間宗一君

理事宮崎 一君 理事紅露 昭君

一松 定吉君 內藤 正剛君

池田 清秋君 田村 秀吉君

原 玉重君 山本 条吉君

川副 隆君 牧野 賤男君

宮澤 清作君 松本 弘君

森 榮藏君 中野 治介君

曾木 重貴君 永山 忠則君

佐竹 晴記君 菊地養之輔君

出席政府委員左ノ如シ

司法省民事局長 大森 洪太君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○野村委員長 是カラ開會致シマス

○山本委員 委員ノ方ガ少イノデスカラ、

議事進行モ變デスケレドモ、速記録ニ書イ

テ、後デ質問ヲスル資料ニシタイト思フノ
デスガ、非常ニ條文ガ多イノデアリマス
ケレドモ、眞ニ改正サレタ重要ナ點ト云フモ
ノハ、サウ澤山ナイノデアリマスカラ、改

正サレタ部分ニ對スル政府委員ノ説明ニ於
キマシテモ、特ニ重要ナル部分ニ付テ直截
簡明ニ御説明ヲ願フ程度ニ止メマシテ、時
間ヲ節約致シ、委員ノ方ニ於キマシテモ、

特ニ重要ナル部分ニ付テ、而モ重複ヲ避ケ
テ極メテ簡單ニ質問ヲスルト云フコトニシ
テ、議事進行ヲ圖リタイト思ヒマス

○野村委員長 只今ノ山本君ノ御意見ニ別

ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○野村委員長 其通りニ取計ヒマス——第

四節社員ノ退社

○大森政府委員 第四節社員ノ退社ニ付キ

マシテ、順次變更ノ點ヲ申述ベテ參リマス、
先ヅ第八十六條デアリマス、御承知ノ通り
ニ現行規定デハ他ノ社員ノ一致ヲ以テ社員
ノ除名ヲ爲シ得ルト云フコトニナツテ居ッ

テデアリマス、然ルニ此他ノ社員ノ一致ト

云フコトニ付テハ、解釋上往々ニシテ疑問
ヲ生ジタデアリマス、ソレノミナラズ合
名會社ノ社員ノ地位ヲ剝奪スルト云フコト

ハ、相當重大ナル問題デアリマスルガ、之
ヲ單ニ社員間ノ問題ニ委ネテ置クト云フコ
トハ、甚ダ宜シクナイノデアリマス、是ハ

裁判上此資格ノ喪失ノ宣告ヲ求メルト云フ
コトニスルノガ適當デアラウト存ジタ次第
デアリマス、即チ第八十六條ニ依リマシテ

社員ノ除名、業務執行權若クハ退社權ノ喪

失ノ宣告ト云フコトヲ、裁判上ノ問題トシ

タ次第デアリマス、第八十七條ハ社員ガ除

名セラレタ場合ノ會社トノ計算關係ヲ付ケ

ル其時期ヲ、明ニシタ規定デアリマス、次

ノ第八十八條ハ先程申述ベマシタ第八十六

條ノ訴、即チ社員除名等ノ宣告ノ請求ノ事

件ニ付テ、裁判所ノ專屬管轄ヲ決メタ規定

デアリマス、次ニ第九十條デアリマスガ、

社員ノ持分ノ差押ノ效力ヲ茲ニ明ニシタノ

生ジ、而モ多クハ消極ニ解サレテ居リマシ

タ、即チ社員ノ持分ノ差押ノ效果トシテ、利
益配當金持分ノ拂戻ノ金額、是等ニ差押ノ
效力ガ及バナイト云フコトニ、一應解釋上

ナツテ居リマシタガ、ソレデハ差押ノ效果ヲ
舉ゲルコトハ固ヨリ出來マセヌカラ、之ヲ
積極ニ明確ニシタノガ此規定デアリマス、

次ニ第九十一條デアリマスガ、社員ノ持分
ヲ差押ヘマシテモ、依然トシテ其社員ガ社

員トシテ續イテ居リマスナラバ、其社員ト

會社トノ清算關係ガ出來ナイノデアリマ

ス、即チ持分拂戻請求權ニ對シテ債權者ガ

權利ヲ行使スルト云フコトガ出來ナイノデ

アリマス、ソレデハ持分差押ノ效果ノ舉ラ

ナイコトハ申ス迄モナイノデアリマスカラ、

社員ノ持分ヲ差押ヘタ債權者ハ、其社員ヲ

退社セシムルコトノ出來ル途ヲ拓ク必要ガ

アルノデアリマシテ、是レ即チ第九十一條

ヲ新設シタ所以デアリマス、第九十三條ノ

第二項ハ、ヤハリ新設ニ係ルモノデアリマ

スルガ、是亦前ノ場合ニ、丁度之ニ該當ス

ル場合デ御説明申上ゲマシタト同趣旨デア

リマス、此中ニ請求ノ豫告ト云フコトガアリマスガ、是ハヤハリ此前申上デマシタ通りニ債權ノ辨濟期ガ來テ居ナイ、併シ今其請求ノ豫告ヲシテ置カナケレバ、此二年ノ期間ガ經ツテシマフト云フヤウナ場合モアリマセウカラ、特ニ左様ナ場合ヲ考慮シテ、請求ノ豫告ト云フ一ツノ場合ヲ加ヘタ次第デアリマス

○松木委員 此九十一條ニ付テ一寸御伺致シマス、此七十三條ノ規定カラシテ、今政府委員ノ御説明ニ依リマシテモ、持分ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得ナケレバ讓渡ガ出來ナイ此精神カラスレバ、差押モ出來ナイ、結局差押ヲシテモ何等差押債權者ハ、法律的手續ニ依ツテ其持分ノ處分ガ出來ナイヤウニ解釋サレルノデアリマス、ソコデ九十一條ト云フモノガ規定サレタヤウニ解釋サレルノデアリマス、ソコデ九十一條ノ規定ニ依リマス、差押債權者ハ營業年度ノ終リヲ待ツテ居ナケレバ、結局持分ノ換價ガ出來ナイ、斯ウ云フ結果ニナルヤウニ考ヘラレマス、ソコデ退社スレバ持分ノ拂戻ノ權利ニ變ハルノデアアルカ否ヤ、ソレハドツチデモ宜イト致シマシテ、此場合退社シタ時ノ會社ノ財産ノ現況デ、拂戻ヲスルト云フコトニナリマスカ、或ハ競賣手續ナリ所謂合法ノ

手續ニ依ツテソレヲ換價シテ、其ノ持分ナリ拂戻ノ權利ヲ、買受ケタル者ニ對スル拂戻ハ、競賣若クハ其買受ケタル時ノ會社ノ財産ノ現況ニ依ツテ、拂戻サレルコトニナルノデアリマス、是ハドウナルノデアリマセウカ

○大森政府委員 只今ノ御尋ハ二ツノ點ニ互ツテ居ルヤウニ拜承シタノデアリマスガ、先ヅ第一點ト致シマシテ、第七十三條ニ社員ノ讓渡ニ付キマシテハ、制限ガアリマスルガ、此制限ハ差押ニハ關係ノ無イモノトシテ立案ヲシタ次第デアリマス、即チ差押ニ付キマシテハ、他ノ社員ノ承諾ヲ必要トシナイ積リデアリマス、第二點デアリマシガ、社員ガ退社致シマスル時ニ、會社ト社員トノ間ノ清算關係、即チ其持分拂戻額ノ計算ニ付キマシテハ、其時期ハ退社ノ時、即チ第九十一條デ申シマスルト、其當該營業年度ノ會社ノ現實財産ヲ基礎トシテ、計算スルモノト心得テ居ルノデアリマス

○松木委員 只今ノ御説明ニ依レバ、退社セシメナクテモ持分ノ差押ヲシタ債權者ハ處分ガ出來ル、サウスルト其處分シタ當時ニ於ケル會社ノ財産ノ現況ニ於テ拂戻サルベキモノデアアル、斯ウ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○大森政府委員 差押ヲシタダケデハ退社ハ生ジマセスカラ、差押ヲシタ債權者ハ第九十一條ニ依リマシテ差押ノ實效ヲ舉ゲヨウト思ヘバ、退社ヲセシムルコトガ出來ルト云フコトヲ茲ニ明ニシタノデアリマス、サウシテ退社ヲセシムルナラバ、退社ハ常ニ區々デ、バラ／＼ニ效力ヲ生ジマスルト、會社トシテハ計算關係デ迷惑デアリマスカラ、其退社請求ノ效力ハ營業年度ノ終ノ時ニ效力ヲ生ズル、斯様ニ致シタ次第デアリマス

○松木委員 只今ノ御説明ニ依リマス、七十三條ノ規定ニハ他ノ社員ノ同意ヲ得ナケレバ、持分ヲ讓渡スコトハ出來ナイトナツテ居ルケレドモ、本法ニ於テハ差押債權者ハ其規定ニ拘ラズ、差押ヲ以テ之ヲ處分シ得ルト云フヤウニ只今御説明ガアツクノデアリマスガ、サウスレバ九十一條ニハ「債權者ハ營業年度ノ終ニ於テ其ノ社員ヲ退社セシムルコトヲ得」ト斯ウナツテ居ルノデアリマスガ、退社ヲセシメナクテモ、持分ノ差押ガ出來ルト云フ法律上ノ前提ガアルナラバ、無論差押ニ依ツテ強制執行モ出來ルト云フコトニナリマスカラ退社セシメナクテモ、差押債權者ハ執行ニ依ツテ持分ノ換價處分ガ出來ルカドウカト云フコトヲ、御聽キ

シタイノデアリマス

○大森政府委員 差押ダケデハ持分ソレ自身ノ換價處分ハ出來ナイノデアリマス、且シ差押ヲ致シマスレバ、此新設ノ第九十條ノ規定ニ依リマシテ、利益配當金ハ其都度貰ヘマスカラ、利益配當金ノ上ニハ掛ツテ行ケルノデアリマスケレドモ、社員ガ會社カラ退キマシタ場合ニ、會社トノ清算ノ結果得マス金、即チ拂戻金、丁度手切金ノヤウナモノデアリマセウ、ソレニ掛ツテ行クノニハ、退社セシメナケレバ掛ツテ行ケマセウカラ、ソレデ、退社ノ途ヲ開イタ、斯ウ云フコトニ相成ルト思フノデアリマス

○松木委員 營業年度ノ終ト云フコトハ會社ト致シマシテモ、退社社員ノ方面カラ言ッテモ、差押債權者ノ方カラ言ッテモ、非常ニ妥當ニ考ヘラレルノデアリマスガ、此規定ノ全體ヲ見マス、社員ガ「定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ社員ノ終身間會社ノ存續スベキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得」トナツテ居リマス、是ハ是デ宜イト思ヒマスガ、會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハズ、已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ガ出來ル、斯ウ云フ場合ニ於テハ、退社ノ時ノ會社財産ノ

現況ニ依ッテ拂戻ヲ受クル、除名ノ場合ニ於テハ、除名ノ訴ヲ提起シタ時ヲ以テ會社財産ノ現況ニ依ッテ、拂戻ヲ受クル、死亡、破産、禁治産ノ場合ノ如キモ、營業年度ノ終ニ非ズシテ、中間ニ於テ、持分ノ拂戻ガ出來ルト云フヤウニ、是ハ解釋サレルヤウデアリマス、是ハヤハリ營業年度ノ終ニ於テ會社財産ノ現況ニ依ッテ拂戻スト云フコトニスル方ガ、妥當デナイカト思ハシメルノデアリマスガ、其邊ハ如何デアリマスカ

○大森政府委員 御尤ノ御意見ト存ズルノデアリマスガ、此會社ノ營業年度内ニ退社ノ效力ヲ生ジマシテ、隨テソレト同時ニ直ニ持分ノ拂戻額ヲ計算致シマスノハ、御承知ノ通りニ萬已ムヲ得ザル場合デアリマシテ、今御尋ニナリマシタ外部ノ會社債權者カラ、其除名ヲ請求シマスル場合トハ、少シク其趣ヲ異ニシテ居ルカト思フノデアリマス、即チ外部ノ債權者カラ退社ヲ請求シマシテ、其結果持分ヲ拂戻ニナルト云フヤウナ場合ニハ、ヤハリ會社ノ便益モ考ヘテヤラナケレバナラナイト存ズルノデアリマシテ、ソレガ爲ニ營業年度ノ終ニ於テ、退社スルコトニシテアリマス次第デアリマス

○山本委員 一點御尋シテ置キタイノデス

ガ、前回ニ私ハ疑義ガアッテ御尋シタノデスケレドモ、九十條ノ差押ノ效力ノ問題デスガ、此條文ノ新設ニハ極メテ賛成ナンドスガ、是ダケデ債權者保護ノ目的ガ完全ニ出來ルカト云フコトヲ實際問題ニ就テ考ヘテ見マス、私共ハ實際ノ仕事ニ「タッチ」シタ上カラ考ヘテ見ルト、持分ヲ差押ヘテ之ヲ九十一條デ營業年度ノ終リニ處分ラスル、是モ勿論結構デアリマスガ、其會社ノ性質ノ如何ニ依リマシテハ、持分ヲ處分ヲシヨウトシテモ、合名會社ハ御承知ノ如ク無限責任デアルカラ、無限責任者ニナルコトガ嫌ナ爲ニ、引受手ガナイ、ケレドモ當分利益ガ相當ニ舉ッテ居ルノデ、利益配當ガ相當ニアル、ソコデ債權者ノ方ハ是ハ持分ノ差押ヲシテ、換價處分ヲシナイデ利益配當ヲ受ケテ居ル方ガ宜イト考ヘテ、利益配當金ニ及ブ差押ノ效力ニ依ッテ満足シヨウト思ウテ居ルト、會社ノ方ハ其ノ社員ト他ノ社員トガ横ノ關係ガアル、合名會社ダカラ、ソコデ合議ノ上ニ利益配當ノ定款ノ變更ヲシテ、サウシテ債權者ニ取ラレナイヤウニ、極メテ僅カノ利益配當金ニ止メテ後ハ、積立金ニスルトカ、別途積立金ニシテシマフト、差押債權者ガ其儘デ居ル間、債權者ヲ害スルヤウナ定款ノ變更モ出來ルト云フコトニナ

リマスシ、ソレカラ換價處分ヲシタ方ガ宜イカ、或ハ利益配當ヲ受ケテ居タ方ガ宜イカト云フヤウナコトヲ知ル爲ニハ、差押債權者ハモウ一步進ンデ會社ノ内容ニ付テ貸借對照表トカ、所謂商業帳簿ノ或ル程度ノ閱覽ヲスル權利マデ認メナケレバ、本當ノ債權者保護ガ出來ナイノデハナイカト云フ疑ヲ持ツノデアリマスガ、併シソコ迄債權者ニ強イ權利ヲ與ヘルト云フコトモドウカト考ヘラレルノデアリマスガ、帳簿ノ検査ハ兎モ角トシテ、利益配當ニ關スル定款ノ變更、決議變更ハ差押ノ間ハ出來スト云フ程度ノ規定ヲ、九十條ノ第二項ナリニ設ケルコトガ、眞ニ差押債權者ニ利益ヲ齎スモノデハナイカト考ヘルノデアリマスガ、如何デスカ

○大森政府委員 全ク御尤ナ御見解ト存ズルノデアリマス、差押債權者ノ權益ヲ保護スルト云フ立場カラ申シマスルト、御説ノヤウナ規定ヲ設ケルコトガ極メテ適當デアラウト思フノデアリマス、併ナガラ他面會社ニ付テ考ヘテ見マスルト、會社ノ自治管理ニ付テ必要以上ニ容喙スルト云フヤウナ結果ニナリハシナイカト存ズルノデアリマス、デアリマスカラ此案ニ於キマシテハ、ヤハリ會社ノ權益モ相當ニ考慮スル必要ガ

アルト思ヒマシテ、左様ナ規定ヲ設ケナカッタノデアリマス、尤モ只今申シマシタヤウナ定款變更ト云フヤウナコトヲ致シマシタ場合ニ、是ガ民法上ノ詐害行爲ニ當リマスルナラバ、或ハ民法上ノ詐害行爲ノ方デ解決ガ出來ルカモ知レマセス、併シ是ハ相當立證ガ困難ナ問題デアリマスカラ、事實上御期待ノヤウナ效果ハ擧ゲラレナイト思ヒマス、右御諒承ヲ願ヒマス

○野村委員長 第四節、社員ノ退社、此節ニ對シテハ他ニ御質疑ガナイト思ヒマスカラ、次ノ第五節解散ニ移リマス

○大森政府委員 第五節解散ニ付キマシテ、順次申述ベテ參リタイト思ヒマス、先ヅ第九十四條ノ解散事由ニ關スル規定デアリマスガ、御承知ノ通りニ現行規定デハ、成功又ハ成功ノ不能ト云フコトガ解散事由ニナツテ居リマスガ、是ハ御承知ノ通りニ分ツヤウナ分ラナイヤウナ規定デアリマシテ、解釋上兎角支障ヲ生ジタノデアリマス、ノミナラズ成功トカ成功ノ不能ト云フコトハ、外部ノ第三者ニハ分リ兼ねルノデアリマス、ソレデスカラス様ナ比較的曖昧ナル觀念ヲ解散ノ事由ニ殘シテ置キマスコトハ不適當デアラウト考ヘマシテ、之ヲ削除シタノデアリマス、第九十五條ハ一般のノ問題トシ

テ御説明申上ゲテ置イタ點ニ關スルノデア
リマスガ、此改正案ニ於キマシテハ、會社
繼續ノ場合ヲ擴張シマシテ、即チ合名會
社ニ付キマシテハ現行法ニ依リマシテハ、
第九十四條ノ第一號ノ場合ダケシカ繼續ヲ
認メテ居ナカッタノデアリマス、然ルニ此案
デハ第二號社員ノ同意デ、會社ガ解散ヲ
致シマシタ場合デモ、更ニ繼續ガ出來ルト
云フ途ヲ拓キマシタ、又第四號即チ社員ガ
一人トナツテ解散ヲシマシタ場合ニモ、新ニ
社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトガ
出來ルト云フ途ヲ拓イタノデアリマス、即
チ會社更生ノ機會ヲ多カラシムル爲デアリ
マス、實際上ノ見地カラ申上ゲマシテ、是
ガ適當デハナイカト存ズルノデアリマス、
次ニ第九十七條ノ會社繼續ニ付テ擴張的ノ
規定ヲ設ケタノデアリマス、尤モハ現行
法ノ下ニ於テモ斯様ニ解釋スベキデアラウ
ト思フノデアリマス、即チ會社ノ繼續ハ何
時マデ出來ルカト云フ問題デアリマス、勿
論清算ガ結了致シマスルナラバ、ソレデ會
社ハ消滅スルノデアリマスカラ、會社消滅
後ニ會社ヲ繼續スルト云フコトハ、固ヨリ
アリ得ナイノデアリマスケレドモ、問題ハ
解散ノ登記ヲ爲シタル後ニ會社ノ繼續ガ出
來ルカ否ヤト云フ問題デアリマス、私共ハ
現行法ノ下ニ於テモ、之ヲ積極ニ解釋シテ

居リマス、併シ疑問ノ點ガ多アルモノデ
アリマスカ、之ヲ明確ニ規定スル方ガ
宜カラウト思ツタノデアリマス、是ガ即チ第
九十七條デアリマス、次ニ第九十八條ノ第
二項デアリマス、是モ從來甚シク疑問ノ生
ジテ居タ問題デアリマシテ、解散後ノ會社
ガ他ノ會社ト合併ガ出來ルカドウカト云フ
問題デアリマス、之ニ付テ現行法ノ下ニ於
テハ種々解釋ガアリマシタガ、之ヲヤハリ
實質的ニ考ヘテ見マスト、解散後ノ會社デ
モ存立中ノ會社ニ吸收セラレル場合ナラバ、
其合併ヲ許シマスコトハ固ヨリ弊害ガナク、
利益ガ多カラウト思フノデアリマス、デア
リマスカラ、解散後ノ會社ガ自分ガ存立會
社ニナルト云フコトハ、宜シクナイノデア
リマスケレドモ、存立中ノ會社ニ吸收セラ
レル場合ハ其合併ヲ有效トスト云フ趣旨ヲ、
玆ニ明示シタノデアリマス、次ニ第百條デ
アリマスカ、是ハ御承知ノ通り合併ニ付テ
會社債權者ノ方面ヲ考慮致シマシテ、此權
益ヲ擁護致シマスル爲ノ規定デアリマシテ、
同趣旨ノ規定ハ現行法ニモアルノデアリマ
ス、其現行法ノ規定ヲ變更致シマシタノガ、
此末項デアリマス、債權者ガ異議ヲ述べマ
シタ時ハ會社ハ之ニ辨濟スル、又ハ相當
ノ擔保ヲ供スル、其他ニ更ニ債權者ニ辨濟
ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ、信託會社

ニ相當ノ財産ヲ信託シナケレバナラナイト
云フコトニ致シマシタ、而シテ若シ之ヲヤ
ラナカッタナラバ、ドウナルカト申シマス、
現行法デハソレヲ對抗ノ問題ニ委ネテ居
リマシタ、即チ對抗要件ノ問題ニシテ居リ
マシタケレドモ、ソレデハ甚ダ不明確デア
リマスカラ、此案デハソレヲ必要手續ニ致シ
マシタ、デアリマスカラ斯様ナ手續ヲ履マ
ナイデ合併ヲ敢テ行ヒマスルナラバ、ソレ
ハ違法ノ合併デアル、即チ無効ニナルモノ
ト致シマシタ、即チ合併ノ效力ヲ明確ニシ
タノデアリマス、尤モ後ニ申シマスルガ、
本案ノ第百七條ニ相當有力ナル規定ヲ設ケ
タノデアリマス、即チ後ニ合併無効ノ訴ガ
起リマシタ場合ニ、其合併ガ手續ニ於テ法
規違反デアツテ、隨テ無効トスベキモノデ
アツテ、會社ノ現在ノ狀態ガ甚ダ健全デア
リ、堅實ニ進ンデ居ツテ、既ニ前ニアリマ
シタ所ノ瑕疵ガ十分ニ補充セラレテ居リマ
スルナラバ、其會社ノ合併ヲ無効トスルコト
ハ、寧ロ百害アツテ一利ナキモノデアリマス
カラ、裁判所ハ無効ノ請求ヲ棄却シテ宜シ
イト云フ規定ヲ置キマシタ、是ガ此案ノ第
百七條デアリマス、デアリマスルカラ第百
條末項違反ノ場合ニ於テ、即チ合併ガ無効
ニセラルベキ場合ニ於テモ、尙且ツ第百七
條ヲ活用シ得ル餘地ノアルノハ、豫メ御諒

承ヲ願ヒタイノデアリマス、次ニ、第百二
條デアリマスガ、合併ノ效力ヲ明確ニ致シ
マシタ際、其效力發生ノ時期ハ合併ノ登記
ノ時デアルト云フコトニ致シマシタ、是ガ
丁度第五十七條申述べマシタ通りニ、
會社ノ成立ガ設立登記ノ時デアアル、即チ
登記ガ成立ノ要件デアルト致シマシタノ
ト全ク同趣旨デアリマス、合併ノ登記ハ
合併ノ效力發生ノ要件デアリマス、第百四
條以下ハ是亦包括的説明ノ際ニ申述べ
マシタガ、合併無効ノ訴ニ付テ必要ナル
諸種ノ規定ヲ新設シタモノデアリマス、是
迄ハ合併無効ノ主張ニ付テ、何等ノ規定ガ
ナカッタモノデアリマスカラ、誰デモ、何時
デモ、又如何ナル方法デモ、合併無効ノ主
張ガ出來ルヤウニ解セザルヲ得ナカッタノ
デアリマス、然ルニ合併ト云ツタヤウナ大キ
ナ法律的事實ガ、何時デモ誰デモ、如何
ナル方法ニ依ツテデモ、覆ヘサレルト云フコ
トニナリマスルト、法律關係ガ極メテ不安
定ニナリマス、現ニ現行法ニ於テハ設立無
効ノ訴ニ付テ、其無効ノ訴ニ關スル規定ガ
アルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、
ソレニ準ジテ合併無効ニ付テモ訴ヲ以テノ
ミ主張シ得ルコトニシテ、其訴ヲ提起シ得
ル其手續及ビ判決ノ效力等ニ付テ、明確ナ
ル規定ヲ置ク必要ヲ痛感シタノデアリマス、

是ガ即チ第四百四條以下ノ規定デアリマス、
第四百四條ニ合併ノ無効ハ訴ヲ以テノミ之ヲ
主張スルコトガ出來ルト云フコトヲ明確ニ
致シマシタ、其第二項ハ此訴ヲ提起シ得ル
者ヲ掲ゲタノデアリマス、第三項ニ第八十
八條ノ規定ヲ準用シテ居リマスガ、是ハ裁
判管轄ノ問題デアリマシテ、本店所在地ノ
管轄地方裁判所ノ專屬デアルコトヲ明ニシ
タ次第デアリマス、第五百條ノ第一項デア
リマスガ、訴提起ノ期間ヲ合併ノ日カラ、
即チ合併效力發生ノ日カラ六箇月内ト云フ
コトニ限定ヲ致シマシタ、斯クシテ合併ノ
實質的效果ノ確保ニ努メタ次第デアリマス、
其他ノ百五條ノ規定ハ御承知ノ訴訟手續ニ
關スル規定デアリマス、次イデ第七百七條デ
アリマスルガ、是ガ先程一言致シマシタ相
當有力ナル規定ダト思フノデアリマス、即
チ合併無効ノ訴ガ提起セラレタ場合ニ於テ、
其事實ニ於テハ合併無効ノ原因ガアリマシ
タ、デアリマスカラ何等特殊ノ規定ガナイ
ナラバ、合併無効ノ判決ヲ下スベキ事案デ
アリマスケレドモ、會社ノ現在ノ狀態其他
一切ノ事情ヲ斟酌シ、又合併無効ノ原因タ
ル瑕疵ガ既ニ補充セラレテ居ル、詰リ此會
社ヲ存続セシメル方ガ會社ノ爲ニモ、又會
社ノ社員ノ爲ニモ、又一般第三者ノ爲ニモ
ソレガ利益デアル、斯様ニ裁判所ガ信ジマ

スルナラバ、裁判所ハ合併無効ノ請求ノ棄
却ガ出來ル云フコトニシタノデアリマス、
尙ホ此規定ガ設立無効又ハ決議無効ノ訴等
ニモ同様ニ設ケラレテ居ルノデアリマス、
此規定ヲ適正ニ運用致シマスナラバ、蓋シ
實際界ニ相當立派ナ貢獻ヲスルコトダト存
ジテ居ル次第デアリマス、第八十條以下
モヤハリ合併無効ノ訴、竝ニ判決ニ關スル
問題デアリマスルガ、是等ハ設立無効ノ規
定ニ付テモ、略、同趣旨ノ規定ガアリマシテ、
詳シク申述ベル必要ガナイカト存ズルノデ
アリマス、次ニ第五百十五條デアリマスルガ、
是ハ新設ノ規定デアリマス、合名會社ガ組
織變更ヲ致シマシテ、合資會社ニナリマシ
タ場合ニ、從來ノ社員、即チ無限責任ヲ負
テ居リマシタ者ガ、有限責任社員ニナリマ
シタ場合、即チ其責任ガ輕減セラレマシタ
場合ニ、第三者ノ關係ヲ考慮シテ、其權益
ヲ擁護スル爲ニ、此規定ヲ置イタノデアリ
マス、即チ有限責任ニ、詰リ格下ゲノ社員ニ
ナッタト云フコトヲ、本店所在地登記スル
迄ニ生ジタ所ノ會社債務ニ付テ、依然トシ
テ無限責任ヲ負フノデアルト云フコトヲ明
ニ致シマシタ、即チ自分ガ有限責任社員ニ
ナッタノデハアリマスルケレドモ、其事ヲ公
ニ示ス前ニハ、第三者ニハ分ラナイノデア
リマス、第三者カラ申シマスレバ、彼ハ依

然トシテ無限責任社員デアルト信ジテ取引
ヲシタデアリマセウ、デアリマスカラ左様
ナ第三者保護ノ關係カラ致シマシテ、有限
責任社員ニナッタト云フコトノ登記ヲ爲シ
マスル前ニ生ジマシタ會社債務ニ付テ、無
限責任ヲ免レ得ナイト云フコトヲ明ニシタ
次第デアリマス

○野村委員長 第五節解散ニ付テ別ニ御質
疑ガナイヤウニ認メマス、仍テ第六節清算
ニ移リマス

○大森政府委員 第六節清算ニ付テ申述ベ
タイト存ジマス、先ヅ第七百十七條ノ第二項
デアリマス、御承知ノ通りニ第七百十七條ハ
所謂任意清算ニ付テノ規定デアリマス、是
ハ御承知ノ通りニ現行法ニモアルノデリマ
ス、併ナガラ第二項ヲ新設致シマシテ、會
社ガ第九十四條第四號、是ハ社員ガ一人ト
ナツテ解散ヲシタ場合デアリマス、又ハ第六
號、是ハ解散ヲ命ズル裁判ニ依ツテ解散ヲシ
タ場合デアリマスガ、此二ツノ場合ニ付キ
マシテハ、任意清算ヲ許サナイト云フコト
ヲ明ニシタノデアリマス、社員ガ一人トナ
リマシタ場合ニ任意清算ヲスルト云フコト
ハ、マルデ社員一人ノ勝手ニ清算ヲスルト
云フコトニ陥リ易イノデアリマス、又解散
ヲ命ゼラレタ會社ノ如キハ、是ハ決シテ其營
業狀態ガ十分デナイト思ハレルノデアリマ

シテ、左様ナ場合ニ會社ノ任意ニ清算手續
ヲ委セルト云フコトハ蓋シ不適當デアラウ
ト思フノデアリマス、次ハ此條文ノ末項デ
アリマス、任意清算ヲ致シマスル場合ニ、
社員ノ持分ヲ差押ヘタ者ガアリマスルナラ
バ、此差押債權者ノ權益ヲ十分ニ考慮ラシ
テヤラナケレバナリマセヌ、ソレニ拘ラズ
此差押債權者ノ意向如何ニ拘ラズ、會社任
意ノ清算ヲ致シマスルナラバ、差押債權者
ノ權益ハ恐ラクハ蹂躪サレルデアラウト思
フノデアリマス、デアリマスルカラ差押債
權者ガアルナラバ、其者ノ同意ヲ要スル、
同意ナキ限りハ法定清算ヲ進マナケレバナ
ラナイト云フコトヲ明ニ致シタノデアリマ
ス、第七百十八條モ新設ノ規定デアリマス、是ハ
前條第三項、此條第三項ノ場合ハ、第七百
條ヲ準用シテ居ルノデアリマス、第七百條ハ
先程申シマシタ會社合併ニ付テ、會社債權
者ノ權益ヲ擁護スル手續デアリマス、ソレ
ヲヤハリ任意清算ニ付テモ持ッテ來タノデ
アリマス、デアリマスルカラ、任意清算ニ
付テモ此第七百條ト同様ノ手續ヲ取ラナケレ
バナリマセヌガ、ソレヲシナイデ會社ノ財
產ヲ處分シタナラバ、此會社ノ債權者ハ處
分ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトガ出來ル
ト云フコトニ致シマシタ、此取消請求權ハ
丁度御承知ノ民法ノ詐害行爲ノ取消權ニ書

イテアリマスガ、第二項ニ於キマシテ民法ノ詐害行為ニ關スル規定ヲ玆ニ準用シタ次第デアリマス、次ハ第二百一十一條デアリマス、清算ハ業務執行社員之ニ當ルト云フコトヲ原則的ノモノトシテ之ヲ明確ニ致シマシタ、御承知ノ通りニ現行法ニハ是ガ缺ケテ居ルノデアリマス、隨テ清算人ガ如何ナル社員之ニ當ルカト云フコトガ明瞭デナカッタノデアリマス、本案ニ於キマシテハ業務執行社員ガ原則トシテ清算人ニナルト云フコトヲ明カニシタ次第デアリマス、次ニ第二百二十五條デアリマス、第一項ハ現行規定ニ變更ヲ加ヘタモノデアリマシテ、第二項以下ハ新設ノ規定デアリマス、先ヅ第一項カラ申述ベテ參リマスルガ、御承知ノ通りニ現行規定ニ依リマス、清算中ノ會社ハ辨濟期ニ至ラナイ債權デモ辨濟ヲシナケレバナラナイト云フコトニナツテ居ッタノデアリマス、是ハ清算ヲ促進スルノ趣旨カラ、斯様ナ規定ヲ設ケタモノトハ存ジマスルケレドモ、此清算ノ促進ニ關係ノナイ限り、辨濟期ガ來ナイノニ之ヲ辨濟セシムル、而モソレヲ強要スルコトハ無理デモアリ、又無駄ナヤウニモ存ズルノデアリマス、デアリマスカラ清算遂行ニ必要ナルモノハ其必要ニ應ジテ然レク處分ヲスレバ宜イデアリマセウケレドモ、ソレニモ拘ラズ常ニ辨濟期

未到來ノモノニ付テ辨濟ヲシナケレバナラナイト云フコトヲ強要スルコトハ、是ハ法規トシテ甚ダ當ヲ得タモノデナイト思ハレルノデアリマス、又實際ニ於テモ之ガ爲ニ大變權利關係ノ錯綜ヲ生ジテ居ッタノデアリマス、デアリマスカラ現行法ニ於キマシテハ之ヲ必要手續トハシナカッタノデアリマス、所ガ必要トシテ、即チ清算促進ノ關係上、之ヲ辨濟シナケレバナラナイ場合モアリマセウ、左様ナ場合ニ於キマシテ無利息債權ニ付テハドウスルカ、或ハ條件附債權ニ付テハドウスルカ、存續期間ノ不確定ナ債權ニ付テハドウスルカ、詰リ其評價ノ問題ニ付テ種々ノ紛争ガ起ルノデアリマス、之ニ付テハ御承知ノ通り破産法ナドニハ適當ナ規定ガアリマシテ、所謂「ホフマン」式トデモ申シマス、ソレ等ノ式ヲ參酌致シマシテ規定ガ出來テ居ルノデアリマス、其破産ノ規定ニ準據致シマシテ、第二百二十五條第二項以下ノ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、次ニ第二百二十七條デアリマス、清算人ガ會社ノ營業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スト云フコトハ、是マデ清算ノ必要上屢、起ッタヤウニ存ズルノデアリマス、然ルニ斯様ナ場合ニ營業ノ讓渡ヲ致シマスルノニ、清算人一個ノ任意デ出來ルモノデアルカドウデア

ルナラバ、如何ナル要件ヲ必要トスルカト云フヤウナ、重大ナル問題ニ付キマシテ、現行法ガ何等ノ規定ヲ持ッテ居ナカッタノデアリマス、ソレデ此百二十七條ヲ新設シタノデアリマシテ、斯様ナコトハ社員ノ過半數ノ決議ヲ必要トスルモノデアルト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、續イテ第三百三十一條デアリマス、第三百三十一條ノ本文ハ現行規定ト同趣旨デアリマスルガ、但書ガ——新設ノ規定デアリマス、此但書ガ御承知ノ破産法等ニアリマスル所謂假分配ノ制度ヲ是認シタモノデアリマス、御承知ノ通りニ清算手續ニ於キマシテ、先ヅ現務ヲ完了シ、債權ヲ取立テ、サウシテ會社ノ債務ヲ辨濟スルノデアリマス、サウシテ此會社ノ債務ノ辨濟ガ出來マシタ上ニ於テ、殘餘財產ガアリマスルナラバ、最後ノ手續トシテ殘餘財產ノ分配ヲスルト云フ段階ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ此中ニハ債權ニ付テ争ガアリマシテ債權ノ存否、或ハ債權ノ額等ニ付テ、清算會社ト債權者トノ間ニ種々紛争ガ生ジテ居ル場合ハ、其紛争ノ片付クマデノ債權ノ辨濟ガ完了ハシナイノデアリマスルカラ、ソレヲ待タナケレバ殘餘財產ノ分配ガ出來ナイト云フコトニ、今日ハナツテ居ノデアリマス、併シ大部分ノ債權ニ付テハ辨濟ガ出來マシタケレドモ、比較

的小部分ノ債權ニ付テ争ガアルガ爲ニ、其小部分ノ争ノアル債權ノ片ガ付クマデ、詰リ債務全部ノ完済ニハナリマセスカラ、殘餘財產ノ分配ニ著手出來ナイト云フコトニナリマスルト、社員トシテモ迷惑デアリマスルシ、又清算行為トシテモソレガ爲ニ詰リ比較的小部分ノ支障ノ爲ニ、全部ノ手續ヲ遅ラサナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、デアリマスルカラ左様ナ債務ニ付テ辨濟ニ必要ト認メル財產ヲ留保シテ、ソレダケ取除ケテ置イテ、其他ノモノヲ假分配シテ宜シイ、斯ウ云フ規定ヲ置イタノデアリマス、御承知ノ通りニ破産法ニアル制度ヲ此處ニ持ッテ參ッタノデアリマス、次ニ第三百三十五條デアリマスルガ、從來清算人ニ付テ缺ケテ居リマシタ規定ヲ、玆ニ補充シタノデアリマス、是ハ準用ノ規定デソレヲ賄ッテ居ルノデアリマスルガ、第七十五條ハ業務執行社員ガ自己又ハ第三者ト取引ヲスル場合ノ制限デアリマス、第七十八條第二項ハ、御承知ノ理事ニ關スル民法ノ第四十四條第一項及ビ第五十四條ノ準用規定デアリマス、又第二百五十四條第二項ハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定デアリマシテ、會社ト取締役ノ關係ハ、民法ノ委任ニ關スル規定ニ從フト云フ其規定デアリマス、

ソレカラ第二百六十六條ハ任務懈怠ノ場合
ノ損害賠償責任ニ關スル規定デアリマス、
是等ノ或ル規定ハ、合名會社ノ業務執行者
ニ、或ル規定ハ株式會社ノ取締役ニ關スル
モノデアリマスルカラ、清算人ニ付テモ是
等ノ規定ヲ以テ臨ムコトノ必要ノアルコト
ハ、申ス迄モナイト存ズルノデアリマス、
隨テ現行法ノ缺陷ヲ玆ニ補充シ次第デア
リマス、次ニ第三百三十六條以下ハ、會社設
立ノ無効ノ訴ニ關スル規定デアリマス、御
承知ノ通りニ會社設立ノ無効ノ訴ニ關スル
規定ハ、現行法ニモアルノデアリマス、唯
現行法運用ノ實績ニ徴シマシテ、此規定ガ
大分不備デアルト云フコトヲ、吾々ガ痛感
セザルヲ得ナカッタノデアリマス、デアリマ
スカラ其不備ヲ補ヒマシテ、設立無効ノ訴
ニ對シマシテ適當ナル補充ヲ加ヘタノデア
リマス、御承知ノ通りニ現行法デハ會社ノ
設立無効ノ訴ノ時期ニ付テ、何等ノ制限ガ
ナイノデアリマス、是ガ會社其モノノ存立
ニ付テ、甚ダ不安ヲ與ヘルモノデアリマス
ルノミナラズ、エテ所謂會社荒シノ口實ニ
モナッタノデアリマス、デアリマスルカラ此
案ニ於キマシテハ第三百三十六條ノ第一項ニ
於キマシテ、無効主張ノ期間ヲ限定致シマ
シテ、即チ其成立ノ日カラ二年内ニ訴ヲ以

テノミ之ヲ主張スルコトヲ得ルコトヲ明ニ
致シマシタ、第二項ハ此訴ヲ提起シ得ル者、
即チ原告ノ資格ヲ限定致シマシテ、社員ニ
限ルコトニ致シマシタ、第三項ハ他ノ準用
規定ヲ此處ニ持ッテ來タノデアリマスガ、第
八十八條ハ裁判ノ專屬管轄ニ關スル規定デ
アリマスルシ、第二百五條第三項第四項ハ此
裁判ノ手續、即チ事件ノ併合、其事件ニ關
スル公告ノ規定デアリマス、第七條ハ先
程申シマシタ新設ニ係ル有力ナ規定デアリ
マシテ、所謂瑕疵ガ補充サレテ居ルナラバ、
無効ノ請求ヲ棄却シテ宜シイト云フ規定デ
アリマス、第九條ハ判決ノ效力ニ關スル
規定、第一百條ハ第三者トノ法律關係ニ關
スル規定デアリマシテ、是等社員ノ除名ノ
訴ニ關スル規定及ビ合併無効ノ訴ニ關スル
規定ヲ、設立無効ニ關スル訴ニ持ッテ來テ宜
シイト思フモノヲ、此處ニ並ベタ次第デア
リマス、次ハ第三百三十九條デアリマス、是
モ新設ノ規定デアリマス、設立ヲ無効トス
ル判決ガ確定シマシタ場合ニ、其設立無効
ニナリマシタ所以ガ何處ニ存スルカト言ヘ
バ、或ハ社員ノミニ付テ存シテ居ル、即チ
其社員ナカリセバ無効トハナラナカッタノデ
アル、斯ウ云フ場合デアリマス、左様ナ場
合ニハ他ノ社員ノ一致ヲ以テ、其社員ダケ

ヲ排斥シテ會社ヲ繼續スルコトガ出來ル、
斯ウ云フコトヲ明ニシタノデアリマス、即
チ或ル社員アルガ爲ニ其會社ノ設立ガ無効
ニナッタト云フヤウナ場合ニ、其會社カラ申
シマスレバ、當該社員ハ所謂獅子身中ノ蟲
デアリマス、デアリマスルカラ其蟲ダケヲ
除外シテ、蟲デナイ立派ナ者ダケデ會社ヲ
繼續シテ行クト云フ途ヲ開イタノデアリ
マシテ、是亦實際上必要ナモノデハナイカ
ト思フノデアリマス、第四百十條ハ會社ノ
設立ノ取消ニ關スル問題デアリマス、御承
知ノ通りニ現行規定ニモ、會社ノ設立ノ取
消ト云フコトガアリマスルガ、此設立ノ取消
ノ方法ニ付テハ、現行規定ハ何等限定シテ
居ナイノデアリマス、是亦會社ノ存立ニ付
テ甚シク不安定ノ感ヲ與ヘルモノデアリマ
シテ、又エテ會社荒シノ口實ニモ相成ルノ
デアリマス、デアリマスルカラ本案ニ於キ
マシテハ、會社ノ取消ハ訴ヲ以テノミシナ
ケレバナラナイト云フコトヲ、玆ニ明ニシ
タ次第デアリマス、第四百四十一條モ亦新設
ノ規定デアリマス、是ハ御承知ノ通りニ實
際ニ於テ屢、生ズルコトデアリマスルガ、詐
害的ノ會社ヲ設立スルト云フコトハ、エテ
行ハレル所デアリマス、而モ御承知ノ通り
ニ合名會社、合資會社ト云フモノハ、其設

立手續ガ簡單デアリマスルカラ、債權者ヲ
詐害スル爲ニ自己ノ全財産ヲ會社ニ出資ヲ
シタヤウナ形式ニ致シマシテ、自己個人ノ
財産ヲ無クシテ、債權者ヲ胡麻化スト云フ
コトハ往々ニシテアルヤウニ承ルノデアリ
マス、斯様ナ設立行為ガ民法ノ詐害行為ニ
ナルカ否ヤト云フコトニ付テハ、從來疑ハ
アリマシタ、私共ハ之ヲ積極ニ解シタクハ
思ッテ居ッタノデアリマスルケレドモ、兎ニ角
何等ノ規定ガナイガ爲ニ、疑義アルコトヲ免
レナカッタノデアリマス、其點ヲ第四百四十一條
ニ明ニシタノデアリマス、即チ斯様ナ詐害的
會社ノ設立ハ、取消ノ訴ヲ以テ取消スコトガ
出來ルト云フ風ニ致シマシタ、第四百十五
條デアリマスルガ、是モ現行法ニアル規定
ヲ補充シタモノデアリマス、即チ合名會社
ノ社員ノ責任ハ、本店ノ所在地ニ於テ解散
ノ登記ヲ爲シタ後、五年内ニ請求又ハ請求
ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ
登記後五年ヲ經過シタ時ニ於テ消滅スルト
云フコトヲ明ニシタノデアリマス、同趣旨
ノ規定ハ現行規定ニアリマシタケレドモ、
不完全デアリマシタガ爲ニ、之ヲ補充シタ
ノデアリマス、尙ホ請求ノ豫告ト云フコト
ヲ附加ヘマシタ理由ニ至リマシテハ、前ニ
申述ベタ所デアリマスルカラ、繰返スコト

ヲ省略致シタイト存ズルノデアリマス

○松本委員 此百四十條ハ「會社設立ノ取消ハ訴ヲ以テノミ之ヲ請求スルコトヲ得」ト云フ規定デアリマス、此規定ト百四十一條ノ詐害行為ニ因ル會社設立ノ取消ト、相對照スル條文ノヤウニ考ヘラレマスガ、此以外ニ何カ會社ノ設立ヲ取消シ得ベキ法的根據ガアリマセウカ、若シアリマスナラ伺ッテ見タイト思ヒマス、モウ一ツハ百四十一條ニ「社員ガ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ會社ヲ設立シタルトキハ」云々ト書イデアリマス、私共考ヘマスルト、是ハ多クノ場合ニ於テ其會社ノ主要ナル人物ガ債務ヲ回避センガ爲ニ、合名會社若クハ合資會社ヲ組織シタ場合ヲ狙ッタモノデアルト考ヘラレルノデアリマス、併シ常ニ必シモ合名會社ノ社員全部ガ、他ノ債權者ノ債權ヲ害スル爲ニ會社ヲ組織スルモノトハ思ハレナイノデアリマス、其中ノ或ル一人ガ左様ナ計畫ニ依ッテ居ッデモ、必シモ他ノ社員ガ悉クサウデナイトスル場合ニ於テハ、會社ノ設立ヲ取消サナクトモ、其或ル社員ガ債權者ヲ害スル爲ニ出資ヲシタト云フ場合ニ、其出資ノ取消ヲ爲サシムルコトヲ得ル規定ガ、必要デナйкаト思フノデアリマス、但シ此百四十一條ノ法文ノ精神ハ斯様ナ場合モ含

ム、斯様ナ場合ニ於テハ其出資ヲ取消シ得ル精神ヲ含ンデ居ル、斯ウ云フコトニ解釋シテ宜シイノデアリマス、ソレヲ一寸伺ッテ見タイト思ヒマス

○大森政府委員 御答ヲ致シマス、第一點

ノ第百四十條ニ關スル御質問デアリマスガ、御承知ノ通りニ會社ノ設立ノ取消ト申シマスノハ、法律上取消ノ原因ノアツタ場合ノ取消デアリマシテ、廣ク任意ノ取消デハナイノデアリマス、即チ學說上能ク言ハレマス撤回ニハ該當シナイノデアリマシテ、取消原因ノアツタ場合ノ取消ダケデアルト云フ積リデアリマス、次ニ第二點ノ百四十一條ニ付テノ御尋デアリマスガ、御尤ニ存ズルノデアリマス、社員ガ詐害ニ會社ヲ設立致シマスルナラバ、其會社ノ設立ノ取消ヲ請求シ得ルコトハ、只今御指摘ノ通りデアリマスルケレドモ、併シ先程第百三十九條ニ付テ申シマシタ點、即チ所謂獅子身中ノ蟲ガアツデ、ソレガ爲ニ會社ノ設立ガ無効ニナツタナラバ、ソレダケ除イテ會社ノ繼續ガ出來ルト云フ規定ガ、第百四十二條ニ依ッテ準用サレテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、取消サレタ場合ニ於テモ其當該社員ヲ除外シマシテ、残りノモノダケデ會社ヲ繼續スルト云フ途モ開カレテ居リマス、

其他ニ只今モ御示ニナリマシタ通りニ、會社ノ設立ノ取消ハ請求シナイデ、或ル社員ノ出資行為ダケヲ取消スト云フコトハ、今日ノ民法ノ詐害行為ノ規定デ、私共ハ請求シ得ルコトト存ジテ居ルノデアリマス、此點ハ商法ハ少シモ變更ヲ加ヘテ居ナイノデアリマス、デアリマスカラ一ハ民法ノ解釋問題ニ關係ヲ致シマスルケレドモ、出資行為ダケノ取消モ出來ルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、而シテソレデナシニ此第百四十一條ノ會社其モノノ設立ノ取消ヲ致シマシテモ、ヤハリ今申シタ第百三十九條同様ノ便法ガ、此場合ニ適用サレルト云フコトノ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○山本委員 詐害行為ニ因ル、即チ第百四十一條ノ規定ニハ、ヤハリ第百三十六條第一項ノ規定ガ準用ニナツテ居リマスガ、第百三十六條第一項ノ規定ハ、要スルニ提起

ノ期間ヲ不變期間トシテ二年間ト決メタノデアリマスガ、無効ノ訴ヲ起ス場合ノ此百三十六條ノ原則規定ハ、異議アリマセヌガ、詐害行為取消ノ性質ヲ帶ビル第百四十一條ノ場合ニ、ヤハリ二年間シカ出來ヌト云フコトニ制限スルコトハドウカト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ善意ノ第三者タル債權者ヲ保護スル所以デナイコトガ生ジヤシナ

イカ、遠方ノ、例ヘバ北海道ノ債權者ガ大阪ノ債務者ノ會社設立ノ狀況ト云フヤウナコトヲ、樺太ハ實際ニ出張シテ行ッデ居ッデ、二年間郷里ニ歸ラナカッタト云フヤウナコトガ、ナキニシモアラズデ、觀念的デハアルガ、サウ云フコトガ想像サレルノデアリマス、サウ云フ時ニ既ニ二年ヲ經過シテシマウテ、其會社ノ設立ノ詐害行為ノ取消ガ出來ヌ、勿論前段ノ條文ニ依リマシテ持分ノ差押ガ出來マスルケレドモ、ソレト是トハ觀念的ニ相違ガアルノデアリマスカラ、此詐害行為ノ取消ノ場合ニ限り、設立後二年内ニ限ラナイデ、正當ノ事由ヲ以テ之ヲ知ラナカッタ場合ニハ、更ニ其期間ヲ五年ナリ或ハ適當ノ期間之ヲ延長シテ、債權者ノ過失ニ因ラザル取消權ヲ保護スルト云フコトノ必要ハ、ナイデアリマセウカ

○大森政府委員 御尤ナ御質問ト存ズルノデアリマス、丁度只今御述べニナリマシタヤウナ議論ガ、ヤハリ立案當時ニモ相當ニアリマシテ、立案關係ノ者ニ於テ慎重ニ議論ヲ上下シタヤウナ次第デアリマシテ、此場合ニ債權者ノ見地ニ立チマスルカ、會社ノ見地ニ立チマスルカ、是ハ利害相反スルノデアリマスカラ、其調節ハ出來マセヌケレドモ、會社ト云フ相當有力ニ活動スル一

ツノ人格者ガ、兎ニモ角ニモ成立シタノデアリマスルカラ、是ハ相當長キ期間取消サル、コトニ曝サレテ置クト云フコトハ、會社ノ迷惑ハ固ヨリノコトデアリマスルガ、ソレヨリモ寧ロ其會社ト取引ヲシタ廣キ一般ノ第三者ノ權益ニモ、非常ナ影響ヲ及ボスコトデアリマスカラ、之ヲヤハリ一定ノ期間ニ制限シタ方ガ宜イダラウト云フコトガ、強キ意見ニナッテ現レタノデアリマス、然ラバ之ヲ制限スル期間ハ、二年ガ宜イカ、三年ガ宜イカ、五年ガ宜イカト云フコトニモ相成ルノデアリマス、只今御示シナリマシタヤウニ、善意惡意ヲ分ケテ、其期間ヲ區分シタ方ガ宜イト云フコトモ考ヘラレマスケレドモ、何シロ會社自身が相當大キナ法律行為ヲシ續ケテ來タモノデアリマスカラ、之ヲ相當長キ期間取消サル、危險ニ曝サレテ置クト云フコトハ、宜シクナイダラウ、斯ウ云フヤウナ關係カラ、此案ノヤウニ致シタノデアリマス、尙ホ二年經テマシテ、即チ會社ニ對スル設立取消ノ訴ヲ提起スルコトガ出來ナクナリマシテモ、民法上ノ出資取消ノ請求ハ出來ルコト考ヘマスカラ、二年經過後ハ、ソレヲ以テ甘シズルノ外ハナイカト存ズルノデアリマス

○内藤委員 一點ダケ伺ヒタイ、此合名會

社ノ法規ヲ通覽致シマスルニ、從來トハ餘程進シタ見方デアリ、又缺點ノアル所ヲ餘程補ハレマシテ、疑義ヲ避ケラレタ點ニ付テハ多トスルノデアリマス、併ナガラ私共ノ考ヘ方デスガ、例ヘバ第八十六條ノ第二項ニアリマス「社員ガ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ著シク不適任ナルトキハ會社ハ前項ノ規定ニ從ヒ其ノ社員ノ業務執行權又ハ代表權ノ喪失ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得」斯様ニナッテ居リマス、斯ウ云フヤウナ規定ガ新シク出來テ居ルニ拘ラズ、清算ノ方デハ拔ケテ居ルノデアリマス、固ヨリ清算ニ付テハ社員總會ノ決議等ニ依リマシテ、清算人ノ選任モ致シマスルシ、又清算人ニ重要ナル事由ガアル時ハ、清算人ハ何時デモ社員ガ選任スルノデアリマスカラ、解任ガ出來ルト云フ第三百三十二條ノ規定モゴザイマス、又重要ナル事由アル時ハ、裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依ッテ清算人ヲ解任出來ルヤウナ規定ヲ設ケラレテ居リマスルガ此「重要ナル事由アルトキ」ト第三百三十二條ニアリマスルノハ、即チ第八十六條ノ社員ノ退社ノ規定デアリマスケレドモ、清算人ガ業務ヲ執行シ、又ハ清算ノ範圍内ニ於テ會社ヲ代表スルニ著シク不適任ナルトキト云フモノニ該當スルモノト、此「重要

ナル事由」ト云フモノハ解スベキモノデアリマスカ、又第三百三十二條ノ第二項ニハ利害關係人トアリマスカラ、社員以外ノ利害關係人モ含ンデ居リマスカラ、解任ヲ裁判所ニ請求ガ出來ルコトハ無論デアリマスケレドモ、業務ノ執行權若クハ代表權喪失ノ宣言ヲ、或ル程度マデ求メテ置カナケレバ、不都合ナ者モヤハリ繼續シテ仕事ヲスルト云フ結果ニナルノデアリマスカラ、是ハ司法當局トシテハ從來ヤッテ居ルヤウナ假處分等ノ形式ニ依ッテ、一時業務ノ執行權ヲ奪ヘルカラ、此規定ハ特ニ設ケヌデモ宜イト云フ意味デ拔イテ居ラレルノデアリマセウカ、此點ノ疑義ヲ質シテ置キタイ

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマス、第三百三十二條ガアリマス爲ニ、御指摘ノ第八十六條ハ清算人ニ持ッテ行ク必要ガナイト存ジタノデアリマス、然ラバ既ニ業務執行社員ニシテ、第八十六條ガアルノデアリカラ、清算人ニモソレヲ持ッテ行ケバ宜イデハナイカト云フコトモ考ヘラレルノデアリマスケレドモ、只今御示シナリマシタヤウナ假處分ノ活用ノ餘地モアルノデアリマスカラ、第三百三十二條ダケデ先ヅ足リルモノト立案當時ヨリ考慮シタ結果デアリマス

○野村委員長 宜シウゴザイマスカ
○内藤委員 宜シウゴザイマス
○野村委員長 山本君如何デスカ
○山本委員 結構デス
○野村委員長 ソレデハ第六節清算ニ對シテハ他ニ質疑ガナイト思ヒマスカラ、次ノ第三章合資會社ニ移リマス
○大森政府委員 第三章合資會社ニ付キマシテ、改正ノ點ヲ順次申述ベテ參リタイト存ジマス、先ヅ第四百四十九條ノ第二項デアリマスガ、是ハ現行規定ヲ、實際上ノ便益ニ鑑ミマシテ變更ヲ致シタノデアリマス、即チ有限責任社員ニ付テハ、登記シタ事項ノ公告ニハ其員數及ビ出資ノ總額ヲ掲グルヲ以テ足リルコトニシタノデアリマス、現行規定ニ依リマスルト有限責任社員ニ付テモ一々個々ニ之ヲ明ニシナケレバナラナカッタノデアリマスケレドモ、有限責任社員ノ性質上、左様ナ詳細ニ公告ヲスル必要ハナイノデアリマシテ、此規定ノヤウニ致シマスルコトガ便宜デハナイカト思フ次第デアリマス 次ハ第五百五十五條デアリマス、是ハ競争業禁止ニ關スル規定ヲ、此處ニ持ッテ來タノデアリマスガ、規定トシテハ競争業禁止ニ關スル規定デ、競争業ヲコ、デ阻止シタノデアリマス、併シ其中ニ「取締役

ト爲ルニハ」云々ト云フコトヲ一ツ加ヘタ
ノデアリマス、是ハ御承知ノ通りニ支配人
ナリ合名會社ノ社員ナリ、ソレ等ノ競争業
禁止ノ規定ニ付キマシテ、是マデ取締役ガ
漏レテ居ツクノヲ加ヘマシタ、デアリマス
カラ其權衡カラ此第五百五十五條ニモ取締役
ト云フ文字ヲ引用シテ來ル必要ヲ生ジタノ
デアリマス、次ニ第五百五十七條デアリマス
ガ、御承知ノ通りニ現行法ニ於キマシテハ、
有限責任社員ノ責任、即チ其有限ノ限度範
圍ニ付キマシテ、全ク規定ガ漏レテ居ルノ
デアリマス、隨テ學說判例ニ依ツテ之ヲ決ス
ルノ外ハナカッタノデアリマス、尤モ此點ニ
付キマシテハ、學說ニ於テモ甚シキ異論ノ
アルコトハ疑ナイノデアリマスケレドモ、
併シ責任ノ限度ト云フコトハ固ヨリ重大ナ
問題デアリマスカラ、之ヲ學說ニ委ネルト
云フコトハ、法規トシテ極メテ不親切デア
リマス、ノミナラズ、今日略、解釋ガ一定
シテ居ルモノト致シマシテモ、將來又如何
ナル新シキ説ガ生ジテ來ルカモ分ラナイノ
デアリマス、デアリマスカラ是ハ明確ニ法
文ヲ以テ規定シテ置クニ如カズト考ヘタノ
デアリマシテ、即チ第五百五十七條ハ其必要
カラ生ジタモノデアリマス、即チ「有限責
任社員ハ其ノ出資ノ價額ヲ限度トシテ」所

謂直接ノ責任ヲ負フト云フコトヲ明ニ致シ
マシタ、併シ出資ノ價額ヲ限度ト致シマス
ルケレドモ、既ニ會社ニ履行濟ノ價額ニ付
テハ此中ニ入ラナイノデアリマス、即チ一
万圓ヲ出資スル有限社員デアリマスルナラ
バ、一万圓ノ限度デ直接ノ責任ヲ負ヒマス
ルケレドモ、其中既ニ三千圓ガ出資履行濟
デアリマスルナラバ、結局七千圓ノ限度ニ
於テ責任ヲ負フト云フコトニ相成ルノデア
リマシテ、此點ハ今日ノ解釋上デモ略、左
様ニ相成ツテ居ルト承知ラシテ居ルノデア
リマス、第二項ハ之ニ關シマシテ、念ノ爲
ニ更ニ規定ヲ加ヘタモノデアリマス、即チ
會社ニ利益ガナイニ拘ラズ配當ヲ受ケマシ
タ者ガアリマスルナラバ、即チ所謂配當
ガアリマスルナラバ、其金額ヲ控除シテ出
資ノ價額ヲ定メルト云フコトニ致シマシ
タ、詰リ出資ヲ致スコトニナツテ居リマシ
テモ、蛸配當ヲ受ケテ居リマスレバ、其蛸配
當ヲ受ケタ部分ニ付テハ結局出資ヲシナ
カッタコトト同ジニナルノデアリマスカラ、
蓋シ第二項ノ規定ハ固ヨリ當然ノ所デハナ
イト存ズルノデアリマス、第五百五十八條
ハ、此出資減少ニ付テ現行規定ノ第六十六
條ガアリマシタガ、此出資減少ニ關スル現
行規定ハ、實際ニ於テハ餘リニ役ニ立たナ

イノデアリマス、又合名會社、合資會社共
ニ社員ガ直接責任ヲ負ヒマスカラ、此點ヲ
左程餘リ喧シク言フニモ及バナイノデアリ
マス、デアリマスカラ左様ナ規定ハ之ヲ削
除致シマシタケレドモ、併シ有限責任社員
ニ付キマシテハ出資減少後デモ、其登記ヲ致
シマスル迄ニ生ジタ會社ノ債務ニ付キマシ
テハ、有限責任社員ノ責任ノ範圍ハ少シモ
從前ト變ラナイノダト云フコトヲ明ニスル
必要ヲ生ジマシタ、ソレデ現行規定ノ第六
十六條ノ或ル部分ヲ第五百五十八條トシテ保
存ラシタト云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイノデ
アリマス、詰リ有限責任社員ハ出資減少ノ
結果自分ノ出資額ガ減リマシテモ、ソレヲ
登記シマスル迄ハ、ヤハリ減ル以前ノ責任
ヲ持ツテ居ルモノト第三者ガ思ヒマセウカ
ラ、ソレデ斯様ナ規定ヲ置イテ、其第三者
ヲ保護シタ所以デアリマス、第五百五十九條
ノ第一項デアリマスルガ、是ハ現行規定ト
餘リ變リハナイノデアリマス、唯文字ヲ明
確ニ致シマシタ、即チ「其ノ社員ハ誤認ニ
基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ」ト
云フコトヲ明ニシタノデアリマス、是ハ本
案ノ第八十三條デ既ニ申述ベタ所ト同趣旨
デアリマス、第二項ハ全然新シイ規定デア
リマス、是ハ現行法ニ全ク缺ケテ居ツクノデ

アリマシテ、之ヲ漏ラシテ居ルト云フコト
ハ現行法ノ不備ダト存ジタノデアリマス、
詰リ有限責任社員ガ無限責任社員ト偽リ
マシタ場合ハ第一項、是ハ現行法ニ既ニ
規定ガアリマスルケレドモ、有限責任社
員ガ無限トハ言ハナイケレドモ、有限ノ
限度ヲ多ク見セビラカシタ場合、例ヘバ
一万圓ノ責任ノ社員デアアルニ拘ラズ、十
萬圓、百萬圓ノ責任ヲ負フヤウナ社員ノ
如キ額ヲシタ場合ノ規定ガ抜ケテ居リマシ
タ、ソレヲ補充シクノガ此第二項デアリマ
ス、ソレカラ第六十條デアリマスルガ、
是ハ先程牽聯シテ申シタ點ニモ關係致シ
マスケレドモ、有限責任社員ガ無限責任
社員トナリマシタ場合ニハ、第八十二條ノ
規定ヲ準用致ス、是ハ御承知ノ加入前ニ生
ジテ居ツク會社債務ニ付テモ責任ズルト
云フ規定デアリマス、ソレカラ無限責任社
員ガ有限責任社員ニナリマシタ場合ニハ、
第九十三條ノ規定ヲ準用致シマシテ、是ハ
會社登記前ニ生ジタ會社債務ニ付テモ從前
通りノ責任ヲ負フト云フ規定デアリマス、ソ
レカラ第六十四條デアリマス、是亦合名
會社ニ付テ申述ベマシタ通りニ、清算ヲ誰
ガヤルカト云フコトハ合資會社ニ付テモ規
定ガナカッタノデアリマス、デアリマスルカ

ラ業務執行社員ガ其清算ニ當ルコトヲ原則トスルト云フコトヲ第百六十四條ニ明ニシタノデアリマス、丁度同様ノ規定ヲ合名會社ニモ置キマシタ、ソレト全ク趣旨ヲ同ジクスルノデアリマス

○内藤委員 一點御同致シマス、只今ノ御説明カラ見マスルト云フト、合名會社ニ於ケル有限責任社員ノ出資ハ現物デ出來マサルコトモ舊法ト餘リ變リハアリマセス、併ナガラ世間往々ニシテ致シマスル水盛ト唱ヘマスヤウナ問題デアリマスルケレドモ、サウ云フ事柄ニ付テ何等取締ノ規定ガナイノヲ私ハ憾ムノデアリマス、例ヘバ過日總括ノ御説明トシテ、株式會社ニ於テ發起人ガ現物ヲ以テ出資ヲ致シ、其發起人ガ出資シタル現物ノ價額其他ニ於テ變更セラレタ場合ニ於テハ、引受ノ取消ガ出來ルト云フコトガ御説明ニアツクノデアリマス、而シテ合資會社ニ於テハ、ソレト同様ニ現物ヲ以テ出資ノ拂込ヲ許シ、而モ之ニ水盛ガアツタ場合ニ於テ何等取締ガナイト云フコトハ、會社内ノ關係ニ於テハ弊害ナシト致シマシテモ、外部ノ關係ニ於テ不測ノ損害ヲ受ケル者ナシト斷言シ得ナイノデアリマス、之ニ對シテ當局ハ如何ナル取締方法ヲ以テ臨マレント致シマスカ、法規ノ根據ノ

御示シヲ願ヒマス

○大森政府委員 御尤ナ御陳述ダト拜承致シタノデアリマス、唯有限責任社員ハ御承知ノ通りニ其責任關係ニ於テ寧ロ從タル地位デアリマス、無限責任社員ヲ持ッテ居ルモノニ附イテ居ルノデアリマスルカラ、此責任有限社員ノ財産出資ノ評價ノ點ニ付テ左程嚴重ナル規定ヲ以テ臨ムコトノ必要モナイト存ジマシテ、現行規定其儘ニ存置シテ置イタ次第デアリマス、御指摘ノ株式會社ニナリマスルト、申ス迄モナク物的會社デ、資本ガ唯一ノ信用ノ基準デアリマスカラ、之ニハ嚴格ナ規定ヲ以テ臨ム必要ヲ認メタノデアリマス、人的會社ト物的會社トノ相違ト云フヤウナ點ニ考慮ヲ拂ヒマシテ、有限責任社員ニ對シテ左程嚴重ナ規定ヲ設ケナカッタ次第デアリマス

○内藤委員 私ハ其點ハ司法當局トシテ認識ガ不足デハナイカト思フ、固ヨリ株式會社ノ本來ノ性質ト致シマシテハ、物的資本ガ本ニナッテ居ル、司法當局トシテハ近時各所ニ設立サレテ居リマスル大會社ノヤウナモノヲ御標準ニナッテ資本ヲ今御説明ニナッタヤウナ趣旨デ御話ガアツタと思フ、併ナガラ合名會社、合資會社ニ於キマシテモ、人ノ信用ハ五十萬圓百萬圓ニ換ヘラレヌ場合

モ澤山アルノデアリマシテ、人的資本ハ小サナ株式會社ニ比シテ尙ホヨリ重大ナ事柄ガアルト私ハ思フノデアリマス、先程ノ御説明カラ見ルト、合名會社、合資會社ハ主ニ人的資本、人的信用ガ基礎トナル、偶、合資會社ニ於テ物的信用ガ其中ニ入ッテ居ル、併ナガラ株式會社ニ比シテ是ハ小サイト云フ事柄ハ、何ニ依ッテ仰セニナルノデアリマスカ、例ヘバ會社ハ佳友ニ於テ佳友合名會社ガアリ、三井ニ於テ三井合名會社ガアッタコトハ、動カスベカラザル事實デアリマス、株式會社トシテ事業ヲ經營スルガ宜イカ、或ハ合名會社トシテ、一時ニ大キナ人ガ寄ッテヤルガ宜イカト云フコトハ、其時ノ經濟界ノ事情ニモ依リ、社員ノ關係ニ於キマシテ、一概ニ二者ヲ對比シテ、一ヲ小ナリトシ、一ヲ大ナリトスルト云フコトニハ、行キ兼ネルト思ヒマス、等シク會社法規ヲ以ッテ、事業ノ將來ノ指針ヲ示スト共ニ、是ヨリ起ルベキ弊モ、ヤハリ矯メナケレバナラスト思ヒマス、資本ノ大小ヲ以テヤルト云フコトハ、私ハ詭辯ダト思ヒマス、ヤハリ公平ナ見地カラ、何處マデモ資本ノ大小ト云フコトハ眼中ニ置カズシテ、一ツノ法人ガ出來ルナラバ、此法人ニ對シテ内部關係並ニ外部關係兩面ニ互ッテ内部ノモノハ

先ヅ別ト致シマシテ、外部ノ不測ノ損害ヲ受ケルモノナカラヌコトヲ御互ニ望ミ、又受ケサセナイヤウニ留意スルコトガ法ヲ拵ヘル上ニ親切ナヤリ方デハナカラウカト思ヒマス、此點ニ對シテ今私ノ申上ゲタ法文ノ缺如ヲ遺憾ト致シマスガ、司法當局トシテハ、將來斯ウ云フ場合ニ於テハ如何ナル方法ノ下ニ御救済ナサラウト云フ御意見デアリマスカ

○大森政府委員 御注意ハ洵ニ之ヲ多トスル次第デアリマス、合名會社ト株式會社トヲ比ベマシテ、必シモ合名會社ノ方ガ小デアリマス、唯私ガ先程ノ御質問ニ對シマシテ御答ヲ申上ゲマシタノハ、有限責任社員ノ地位ガ無限責任社員ニ比シテ輕ク、無限責任社員ヨリモ有限責任社員ニ對シテ左程嚴格ナル規定ヲ以テ臨ム程ノ必要モナイデハナイカト云フ點ヲ申述べタノデアリマス、併シ色々實際ノ事例ニ徴シマス、有限責任會社ノ責任ヲ胡魔化ス、詰リ現物出資ヲ致シマシタ時ニ、其評價ヲ胡魔化スト云フヤウナコトノ爲ニ、第三者ニ不測ノ損害ヲ生ゼシムルト云フコトモ、或ハ將來大イニ起ルカモ知レナイノデアリマス、左様ナ場合ニ於キマシテ、吾々ノ法規整備ノ

考ヲ以チマシテ、此規定ヲ補足シテ行クト云フコトニ付テ、決シテ其勞ヲ惜ムモノデハナイノデアリマス、唯現狀ニ於テ先ヅ是デ足リルカト考ヘルノデアリマス、暫ク御我慢ヲ願ヒマシテ、サウシテ現狀ヲ見張ッテ行ッテ戴キタイノデアリマス、是ガ非常ナ弊害ヲ醸ス、若クハ其虞ガアルト云フ場合ヲ生ジマスレバ、御説ノ通り之ヲ補充シ、變更スルコトニ付テハ吾々モ固ヨリ其努力ヲ致シタイト存ズルノデアリマス

○内藤委員 合資會社デ、キリガ付キマシテ、此次ニ株式會社ニ移ラレル時ニ、將來ノ質疑ヲ致シマスル參考資料トシテ、此際伺ッテ置キタイト思ヒマス、商法ノ此委員會ニ於ケル總テノ提案理由ヲ聞キマシタ所デ、合名會社、合資會社並ニ株式會社等ヲ通覽致シマシテモ、資本ノ額ニ於テハ最低限度ハ限定サレテ居リマセヌ、何レ後ニ適當ナ機會デ御説明ニナリマスル有限責任會社法案ニ於テハ、資本ノ最低限度ト云フモノヲ決メテ居ルヤウデアリマス、而シテ當局ノ御説明ハ有限責任會社法案ニ於テハ、資本ノ少イモノヲ以テ斯ウ云フ事業ガ出來ルヤウニ、斯ウ云フモノヲ拵ヘタト云フ趣旨ノ御説明ガ過日アッタノデアリマス、彼ト此レトヲ相對照致シマシテ、世間ニアリマス

ル實情ヲ之ニ當テ、見マスルト、政府所期ノ如ク有限責任會社法案ノ最低資本ヲ決メラレタ以上ハ、恐ラク御考ヘ方トシテハ他ノ會社ハ大キイノデハナイカト云フ御考ガアッタト思フノデアリマス、然ルニ資本金ノ最低限度ヲ限定致シマセヌ爲ニ、有限責任會社法案ニ決メラレタヤウナアノ金額ヨリ、少キ株式會社ノ存在ハ免レスコトニナリマス、出來ルコトニナリマス、合名會社ニ於テモ合資會社ニ於テモ其通りデアリマスガ、將來ノ質疑應答ニ問題ニナルト思ヒマス

○大森政府委員 御尤ノ御尋デアリマス、資本ニ重キヲ置キマスル會社ハ、申上ゲル迄モナク株式會社ト有限會社トデアリマサルカラ、此兩者ニ付キマシテ今ノ御質疑ノ點ヲ申述ベタイト思フノデアリマス、御示シノ通りニ株式會社ニハ資本ノ最小限度ト云フモノヲ決メテ居ナイノデアリマス、尤モ法律上之ヲ想像致シマスルナラバ、株主ノ最小限度ハ七人デアリマス、小株ガ二十圓デアリマスカラ、ソレガ一株一人ヅ、ト

致シマシテ合計百四十圓ノ株式會社ハ法律上ハ成立シ得ル譯デアリマス、ソレデアリマスカラ強イテ法律上ノ最小限度ト申シマスレバ百四十圓ノ資本ト云フコトガ言ヒ得ラレルカト存ズルノデアリマス、デアリマスルカラ只今御述ベニナリマシタヤウニ相當資本金額ノ少イ株式會社モ現實ニアルコトハ私共モ聞及ンデ居ルノデアリマス、併シ之ヲ大體ニ見マスルト先ヅ株式會社ノ資本ハ相當巨額ナモノデアアルト云ッテ宜イト思ヒマスガ、併シソレハ別問題ト致シマシテ、有限會社ハ有限責任ノ社員ヲ以テ組織スル點ニ於テ全ク株式會社ト同様デアリマス、或ハ之ヲ以テ株式會社ノ一變形ナリト申シテモ宜カラウト存ズルノデアリマス、所ガ此有限會社ノ組織ナリ管理方法ナリハ極メテ簡易デアリ、單純デアリマスガ爲ニ、其設立ノ手續ハ株式會社ニ比シテ是亦簡單デアリマス、即チ法律上干渉的ニ臨ム部分ト云フノハ極メテ少イノデアリマス、デアリマスルカラ、此設立ニ付テ一面甚ダ簡單デアリマスルケレドモ、他面ニ於テソレニ代ルベキ基礎ノ鞏固ナル規定ヲ以テ臨ム必要ガアルコト固ヨリ申上ゲル迄モナイノデアリマス、ノミナラズ只今申上ゲマスル通りニ、設立手續ガ簡單デアリマスルカ

ラ、能ク一個人カ、或ハ會社ト云フコトノ出來ナイ程度ノ小ナル組合ガ、有限會社ノ假面ヲ冠ッテ有限會社ヲシクスルト云フ弊害ガ既ニ有限會社ヲ認メテ居リマスル諸外國ニアルサウデアリマス、ソレ等ノ立法上ノ意見ナリ實際上ノ見解ヲ聞イテ見マスルト、是ハヤハリ、或ル限度ノ制限ヲ設ケテ、個人ニ、又ハ極メテ小ナル組合デ法人ト云フ程度マデ行カナイモノガ、有限會社ノ假裝ヲスルト云フコトヲ避ケナケレバナラス、斯ウ云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、是ハ尤ナコトト思ヒマス、其趣旨カラ致シマシテ有限會社ニ特ニ一萬圓ト云フ資本ノ最低限度ヲ決メタノデアリマス、是ハ御指摘ノヤウニ此有限會社法案ノ第九條デアリマス、デアリマスルカラ、是ハ株式會社ト有限會社トヲ比ベマシテ、ドチラガ大キイカ、ドチラガ小キイカト云フ問題カラ胚胎シタモノデハナイノデアリマス、有限會社ヲ拵ヘルコトガ簡易デアアルガ爲ニ、一個人又ハ極メテ小ナル法人ニマデ適セザル組合ガ得テ有限會社ヲ假裝スルト云フ弊害ヲ防遏スル積リデアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○森委員 一寸一言御尋シタイノデスガ、此百五十七條ノ第二項ニ「會社ニ利益ナキニ

ラ、能ク一個人カ、或ハ會社ト云フコトノ出來ナイ程度ノ小ナル組合ガ、有限會社ノ假面ヲ冠ッテ有限會社ヲシクスルト云フ弊害ガ既ニ有限會社ヲ認メテ居リマスル諸外國ニアルサウデアリマス、ソレ等ノ立法上ノ意見ナリ實際上ノ見解ヲ聞イテ見マスルト、是ハヤハリ、或ル限度ノ制限ヲ設ケテ、個人ニ、又ハ極メテ小ナル組合デ法人ト云フ程度マデ行カナイモノガ、有限會社ノ假裝ヲスルト云フコトヲ避ケナケレバナラス、斯ウ云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、是ハ尤ナコトト思ヒマス、其趣旨カラ致シマシテ有限會社ニ特ニ一萬圓ト云フ資本ノ最低限度ヲ決メタノデアリマス、是ハ御指摘ノヤウニ此有限會社法案ノ第九條デアリマス、デアリマスルカラ、是ハ株式會社ト有限會社トヲ比ベマシテ、ドチラガ大キイカ、ドチラガ小キイカト云フ問題カラ胚胎シタモノデハナイノデアリマス、有限會社ヲ拵ヘルコトガ簡易デアアルガ爲ニ、一個人又ハ極メテ小ナル法人ニマデ適セザル組合ガ得テ有限會社ヲ假裝スルト云フ弊害ヲ防遏スル積リデアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

拘ラズ配當ヲ受ケタル金額ハ之ヲ控除シテ其ノ出資ノ價額ヲ定ム」斯ウシテアリマスガ、是ハ後ニ出資スルモノニ之ヲ控除シテ出資ヲサスト云フノデスカ、一體會社ガ利益ナキモノトスルナラバ、殆ド前ニ拂込シテ出資本モ無價値ノヤウナモノデアルト思フ、又後ニ拂込ム資本モ無價値ノヤウナモノデナアカト思ヒマスガ、此金額ハ追徴スルヤウナ意味ニナルノト違ヒマスガ、其邊一寸私解釋ニ苦シムノデスガ……

○大森政府委員 御答致シマス、是ハ出資ノ額ガ例ヘバ一万圓ト定ツテ居リマシタナラバ、有限責任會社ノ責任ハ一万圓デアリマス、ソレガ第一項ノ規定デアリマスガ、ソレニ但書ヲ付ケマシテ、其出資ノ中デ既ニ二千圓ガ履行濟ナラバ、二千圓ヲ引キマシタ八千圓ガ責任ノ範圍デアリマス、是ハ第百五十七條デアリマス、然ルニ其社員ガ蝟配當デ千圓貫ツテ居ルトシマス、二千圓ノ出資履行ハシテ居リマスケレドモ、千圓貫フベカラザルモノヲ貫ツテ居リマスルカラ、其千圓ヲ差引イテ、詰リ九千圓ノ範圍デ責任ヲ負ハナケレバナラス、斯ウ云フコトニ決メタノデアリマス、詰リ出資ノ履行ヲ致シマシテモ、貫フベカラザル蝟配當ヲ貫ツテ居レバ、出資

ノ履行ヲシナイノト同ジニナルカラ、第一項ノ但書ニ付テハ、ソレハ差引イテ考ヘナケレバナライ、斯ウ云フ積リデアリマス

○森委員 サウ致シマスルト、今御説ノヤウニ二千圓ノ出資ヲシテ居ルテ、サウシテ八千圓殘ツテ居レバ、ソレニ對シテ假ニ一千圓ノ蝟配當ヲシテ居レバ、九千圓ヲ拂込マセ

ル、斯ウ云フコトニナルノデスカ

○大森政府委員 是ハ拂込ノ問題デナシニ、外部ニ對スル責任ノ範圍ハ九千圓ダト云フコトニナリマス、勿論蝟配當ハ會社ニ返サナケレバナライデアリマセウ、デスカラ、千圓ハ其返還ノ問題、八千圓ハ出資ノ問題デアリマスルカラ、實質ニ於テハ御説ノ通りニ九千圓ヲ會社ニ拂フト云フコトニハ相成リマセウ、ケレドモ、此處ニ關スル限りニ於テハ九千圓ノ範圍デ外部ニ對シテ責任ヲ負フト云フコトヲ規定シタニ止マルノデアリマス

○森委員 能ク分リマシタ

○野村委員長 ソレデハ合資會社ニ對スル御質問ハナイヤウニ思ヒマス、次ハ株式會社デス、併ナガラモウ時間ガ參リマシタカラシテ、午後一時半カラ更ニ引續イテ開クコトニ致シマス、是デ休憩致シマス

午後零時四分休憩

午後一時五十分開議

○野村委員長 是カラ開會致シマス、第四章株式會社、第一節設立

○大森政府委員 是カラ株式會社ニ付テノ説明ニ入ルノデアリマス、屢申述べマシタ通りニ株式會社ニ付テノ改正ノ點ハ、大分多イノデアリマス、今朝ホド御示シノ次第モアリマシタカラ、其重要點ヲ追ッテ申述べテ見タイト存ズルノデアリマス、先ヅ第百六十六條デアリマス、其第二項ハ全ク新設ノ規定デアリマス、從來御承知ノ通りニ會社ガ出シマスル公告ノ方法ニ付テハ、法律ニ何等限定ガナカッタノデアリマス、デアリマスカラ甚ダ公告ニ適セザル公告方法ヲ定メテ居ル會社モアリマシテ、實際上甚ダ遺憾ナコトデアリマスルカラ此第二項デ官報又ハ時事ニ關スル事項ヲ掲載スル日刊新聞紙ニ掲載スルコトヲ明ニシタ次第デアリマス、尙ホ現行規定デ取締役ノ有スキ株式ノ數ト云フノガ、定款ノ記載事項デアリマシタガ、後ニ申シマスル通り取締役ハ必シモ株主タルコトヲ要シナイコトニナリマシタカラ、其條項ヲ除イテ置イタノデアリマス、次ハ第百六十七條デアリマシテ、是ハ株式會社ノ定款ハ公證人ノ認證ヲ受ケナケレバナライト云フコトヲ明ニ致シマシタ、御

承知ノ通りニ現在ノ實例ニ於キマシテ、定款ノナイ會社ガ往々ニシテアッタノデアリマス、定款ガナクテ會社ガ出來ル筈ハアリマセウケレドモ、アッタ定款ヲナクシテシマフ、或ハ故意ニナクサナイマデモソレヲ失ツテシマフト云フコトガアルノデアリマシテ、之ガ爲ニ第三者及ビ株主ニ迷惑ヲ及ボスト云フコトガアリマスルカラ、株式會社ニ付キマシテハ公證人ノ認證ヲ要件ト致シマシテ、尙ホ此認證ノ手續ニ付キマシテハ、現行公證人法デハ足りマセウカラ、其規定ヲ後ニ補充ヲ致ス積リデ居ルノデアリマス、次ニ第百六十八條デアリマスルガ、是ハ御承知ノ定款ノ相對的必要事項ヲ列舉シタモノデアリマス、其中ニ第六號ト致シマシテ、會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産ヲ、定款ニ明記スルコトヲ必要トシタノデアリマス、是ハ御承知ノ通り今日現物出資ノ規定ノ適用ヲ潛リマス爲ニ、現物出資ト全ク同一視スベキ此場合ノ讓受クルコトヲ約シタル財産、之ヲヤタラニ拵ヘテ、會社ノ基礎ヲ薄弱ニスルト云フ弊害ガアリマスカラ、是ハヤハリ現物出資ト同様ニ定款ニ記載シナケレバ、其效力ヲ有シナイコトニ致シタ次第デアリマス、第二項ハ現物出資ヲ爲スノハ何人デアアルカト云コトニ付テ、

現行規定上何等之ニ關スルモノガアリマセ
スカラ、實際ニ於テ往々ニシテ疑ヲ生ジタ
ノデアリマス、私共ハ解釋上ヤハリ斯様ニ
ハナルト思ヒマスルケレドモ、疑ガアリ
マスルカラ本案デハソレヲ條文デ明確ニシ
タ次第デアリマス、第百六十九條モ新設ノ
規定デアリマス、御承知ノ通り現行規定デ
ハ、發起設立ノ場合ニ付テ、其引受ノ形式
ニ何等規定ヲ持ッテ居リマセヌ爲ニ、此引受
ニ付テ後日紛議ヲ生ズル、之ガ爲ニ證據ヲ
明ニシテ置クト云フコトハナカッタノデア
リマス、其弊害ニ鑑ミマシテ、發起設立ニ
於キマシテモ、株式ノ引受ハ書面ニ依ラナ
ケレバナラナイト云フコトヲ、本條デ明ニ
致シマシタ、次ニ第百七十二條デアリマス

〔委員長退席、宮崎委員長代理著席〕

現物出資提供ノ時期ニ付キマシテハ、從來
屢々疑問ヲ生ジマシテ、之ニ付テ幾多ノ紛
争ヲ醸シタコトガアルノデアリマス、
御承知ノ通りニ株式會社ノ現物出資ト申
シマスルモノハ、單ニ金錢デ拂込ム代リ
ニ他ノ財産ヲ以テ拂込ムト云フダケノ單
純ナ意味合デハナイノデアリマシテ、ソ
レヲ會社經營ノ基礎ニスルト云フコトニ
重キヲ置クベキモノデアラウト思フノデア
リマス、デアリマスルカラ現物出資ヲ會社

成立ノ數年後若クハ十數年後ニ提供スルト
云フヤウナコトハ、想像ガ出來ナイノデア
リマス、又左様ニ遅ク提供シマスルナラ
バ、定款ニ現物出資ノ値段ヲ明確ニシテ置
クト云フ精神ト相背馳スルノデアリマス、ケ
レドモ現行法ニハ左様ナ規定ガナカッタモ
ノデアリマスルカラ、之ヲ法文デ明確ニ致
シマシタ、即チ現物出資ノ提供ハ總テ株金
ノ第一回拂込期日マデニ提供ヲシナケレバ
ナラナイト云フコトニ致シマシタ、左様ニ
致シマスルト、茲ニ一ツ困リマスノハ、募
集設立ノ場合ニ於テハ株金ノ第一回拂込期
日ハ、設立手續中デアリマス、デアリマス
ルカラ、若シ現物出資ノ提供ニ付テ登記登
録ヲ必要トスルモノ、譬ヘテ申シマスナラ
バ、不動産ヲ提供シマスル場合ニ、此通り
デ參リマスルト、發起人ノ移轉ノ登記登錄
ヲ致シマシテ、會社設立後ニ改メテ發起人
カラ會社ノ移轉ノ登記ヲ致サナケレバナリ
マセヌ、サウスルト登記ヲ重複致シマシテ、
登記料ヲ倍額要スルコトニナリマスルカ
ラ、其間ノ規定ト致シマシテ但書ヲ設ケタ
ノデアリマス、即チ登記登錄ノ手續ハ會社
成立後ニシテモ宜シイト云フコトニ致シタ
ノデアリマス、次ニ第百七十三條デアリマ
シテ、其第二項以下ガ新設規定デアリマス、

ソレハ相對的記載必要事項ノ中デ、即チ第
百六十八條ノ第一項ノ第四號乃至第七號ニ
掲グル事項ヲ變更シタ場合ノ規定デアリマ
ス、之ニ付テハ從來甚ダ規定ガ不十分デア
リマシタガ爲ニ、洵ニ實際上困ッテ結果ヲ
來シタノデアリマス、ソレ等ヲ補充ヲ致シ
マシテ、適當ニ改正ヲシタノガ此規定デア
リマス、即チ是等ノ事項ヲ裁判所ガ調査ヲ
致シマシテ、不適當ト認メマシタナラバ、
裁判所ガ適當ト認ムルヤウニ變更ヲ加ヘマ
シテ、發起人ニ通告ヲスルノデアリマス、
其場合ニ發起人ガ變更ニ服スレバソレデ宜
イノデアリマススケレドモ、若シ服スルコト
ガ出來ナケレバ、其株式ノ引受ヲ取消スコ
トガ出來マス、譬ヘテ申シマスレバ、甲發起
人ガ或ル現物出資ヲ致シマシテ、之ヲ一万
圓ト評價シテ之ニ對スル株式ガ與ヘラレテ
居ッタノヲ、裁判所ガ之ヲ七千圓ニ減額致シ
タ、斯様ナ場合ニ其甲發起人ガ七千圓ニ服
從スレバ、結構デアリマススケレドモ、七千
圓トサレテ、其七千圓ニ絶對ニ服從シナケ
レバナラナイモノトシマスルナラバ、是ハ
酷デアリマスルカラ、左様ナ場合ニハ引受
ノ取消ガ出來ルト云フコトニ致シマシタ、
サウスルト會社設立ノ形式ニ於テ一蹶跌ヲ
生ズル譯デアリマスルカラ、定款ヲ然ルベ

ク變更シテ、設立手續ヲ續行シテモ宜シイ
シ、或ハ事實上設立手續ガ頓挫スルコトモ
蓋シアリ得ルダラウト思フノデアリマス、
併ナガラ裁判所カラ變更ノ通告ガアリマシ
テ、二週間内ニ引受ノ取消ヲ致サナケレ
バ、定款ハ通告ニ從ッテ變更サレタモノニ
ナッテシマウノデアリマシテ、サウシテ其定
款ニ從ッテ設立手續ガ行ハレルト云フコト
ニ改メタノデアリマス、次ニ第百七十五條
デアリマスルガ、其第二項デ株式申込書ノ
記載要件ニ相當ノ改正ヲ加ヘタノデアリマ
ス、即チ第五號ニ新設ノ規定ヲ加ヘマシ
タ、ソレハ株式ノ讓渡ノ制限ナク、又後ニ
申シマスルガ、此案ニ於キマシテハ株式ノ
讓渡ヲ株券ノ裏書ヲ以テスルコトニ致シマ
シタ、併シ定款ヲ以テソレヲ禁止、制限ス
ルコトヲモ許シテ居ルノデアリマスルカ
ラ、左様ナ禁止制限ガアリマシタ場合、又
株主ノ議決權ノ制限ヲ定メマシタトキニ
ハ、ソレ等ノコトヲ株式申込證ノ記載要件
トシテ明確ニシテ置ク、サウシテ株式申込
人ヲシテ不測ノ損害ヲ被ラザラシムルヤウ
ニ致シタイノデアリマス、ソレカラ第六號
デアリマスルガ、是ハ此案ニ於テ新クニ設
ケマシタ、所謂預合禁止ニ關スル規定デア
リマス、即チ株式申込證ニ株金ノ拂込ヲ取

扱フベキ銀行ナリ信託會社ナリヲ明記シテ
置キマシテ、其處デ拂込ヲ取扱フノデアリ
マス、サウシテ是等ノ銀行又ハ信託會社ガ
確ニ預ッテ居ルト云フ證明書ヲ出シマシテ、
ソレニ基イテ登記手續ガ出來ル譯デアリマ
スルガ、其證明書ヲ出シマスルナラバ、假
令裏面ニ如何ナル約束ガアリマシテモ、即
チ所謂預合ノ約束ガアリマシテモ、其主張
ガ出來ナイト云フコトヲ本案ノ第百八十九
條デ明ニ致シマシタ、即チ此第六號ノ規定
ハ本案第百八十九條ノ規定ニ對應スルモノ
デアリマス、次ニ第二項デアリマスルガ、
後ニ申述べマス通りニ、此案デハ優先株、
後配株ト廣ク二種類ノ株式ノ發行ヲ是認致
シマシテ、而モ其二種類ノ株式ノ發行ハ、
敢テ増資ノ場合ニ限ラズ、設立ノ場合ニモ
之ヲ認メルコトニ致シマシタ、其結果此第
三項ヲ必要トシテ來タ次第デアリマス、次
ニ第百七十八條デアリマスルガ、預合禁止
ノ爲ニ株金ノ拂込ヲ取扱フ銀行又ハ信託會
社ヲ株式申込證ニ書カシメ、是等ハ拂込金
保管ニ付テ證明ヲ出シマスルナラバ、其證
明ノ文句ニ拘束セラルルト云フコトハ、只
今申述べタ通りデアリマス、然ルニ株式申
込證デスル銀行又ハ信託會社ヲ定メマシテ
モ、場合ニ依リマシテハ、是等ヲ變更シナ

ケレバナラナイ場合モ生ズルデアラウト思
ハレルノデアリマス、極端ナ場合ヲ申シマ
スルト、其銀行ガ休業ヲシタ、或ハ破産ヲ
シタト云フ場合ガ起ルカモ知レナイノデア
リマス、又其銀行、信託會社ヲ變更シナイ
迄モ、拂込金ノ保管替ダケスルト云フコト
モアリ得ルダラウト思フノデアリマス、即
チ絶對ニ變ヘテハイケナイト云フコトニ
スルノハ不便デアリマス、併シ之ヲ又矢
鱈ニ變ヘマシテハ、折角スル規定ヲ設ケ
タ實益ヲ減殺スルノデアリマス、デアリマ
スカラソレ等ノ變更ハ裁判所ノ許可ヲ得ナ
ケレバナラナイト云フコトヲ、明ニシタ
ノデアリマス、次ニ第百八十一條デアリマ
スガ、是モ新設ノ規定デアリマス、即チ定
款ノ相對的必要事項デアリマス、其中デ發
起人ガ受クベキ特別ノ利益又ハ現物出資會
社ノ成立後ニ讓受ケルコトヲ約束シタル財
産、會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用ノ發起
人ノ報酬額、是等ヲ定メマシタトキニハ、
募集設立ニ於キマシテモ是等ニ關スル調査
ヲ爲サシメル爲ニ、検査役ノ選任ヲ裁判所
ニ請求スルコトヲ必要手續ニ致シマシタ、
御承知ノ通りニ現行法ニ於キマシテハ、發
起設立ニ付テハ成程裁判所ガ検査役ヲ選任
シテ、之ニ調査セシムルト云フコトガアリ

マスルケレドモ、募集設立ニハナイノデア
リマス、募集設立ニハ唯發起人中カラ取締
役監査役ガ選任セラレタ場合ニ於テノミ、
是等ノ検査役選任ヲ強制シテ居リマスルケ
レドモ、其以外ノ場合ニハ全ク自由ニ致シ
テ居リマス、之ガ爲ニ所謂設立經過ノ調査
ガ甚シク粗漏ニナリマシテ、會社ノ基礎ガ
兎角初カラ危イモノニナッテ居ルト云フ弊
害ハ、皆様御承知ノ所デアラウト存ズルノ
デアリマス、斯様ナ時弊ヲ矯メマスル爲ニ、
斯ル定メガ定款ニアリマスルナラバ、必ズ
検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求シナケレバナ
ラヌコトニ致シマシタ、次ニ第百八十五
條デアリマスガ、創立總會デ只今申シマシ
タヤウナ相對的必要事項ノ或ルモノニ付テ、
之ヲ變更スルト云フコトガアルノデアリマ
スルガ、其變更シタ場合ニ、其結果ガドウ
ナルカト云フコトニ付テハ、現行規定デハ
非常ニ不備デアリマス、現行規定ノ第百三
十五條デアリマスルケレドモ、譬ヘテ申シ
マスルト、甲發起人ガ實物出資ヲ致シマシ
テ、ソレヲ一万圓ト査定サレ、サウシテ一
萬圓ニ相當スル株式ヲ貰フト云フコトニ定
款デ決ッテ居リマシタモノガ、其一万圓ガ不
當デアルト言ウテ創立總會デ之ヲ七千圓ニ
減ズルコトガ出來マス、所ガ七千圓ニ減ゼ

ラレマシタ所ノ甲發起人ガ、ソレデ甘シジ
ナケレバナラヌノデアルカ、或ハ甘ズルコ
トガ出來ナクテ、ソレヲ引込メルコトガ出
來ルノデアルカト云フコトニ付テハ、現行
法ハ全ク明瞭ヲ缺イテ居ルノデアリマス、
併ナガラ斯ル場合ニソレヲ引込メルコトガ
出來ナイトスレバ、甲發起人ニ取ッテソレハ
甚シク苛酷ノコトニ相成ル譯デアリマス、
デアリマスルカラ先程發起設立デ申シマシ
タ第百七十三條ノ第三項以下ノ規定ヲ茲ニ
準用致シマシテ、斯ル場合ニ付テモ適當ナ
ル規定ヲ此處ニ持ッテ參ッテ譯デアリマス、
即チ之ニ變更ヲ加ヘテ發起人ニ通告ヲ致シ
マシテ、ソレノ變更ニ應ジナイ發起人ハ、
其引受取消ガ出來ル、此場合ニ定款ヲ變更
シテ創立ニ關スル手續ノ執行モ出來ル、又
其通告ヲ受ケテ二週間内ニ引受取消ヲシナ
ケレバ、其變更ヲ承諾シタモノト看做サレ
ル、是等ノ規定ガ此場合ニモ支配スルコ
トニ相成ルノデアリマス、次ハ第百八十七
條デアリマスルガ、其第二項ガ新設ノ規定
デアリマス、御承知ノ通りニ創立總會ニ於
テ定款ノ變更ヲスルコトモアリマスレバ、
設立廢止ノ決議ヲスルコトモアルノデアリ
マス、斯ル場合ニ定款ノ變更ヲスルト云フ
コト、又ハ設立廢止ノ決議ヲスルト云フコ

トヲ、豫メ招集通知ニ掲ゲテ置カナケレバ
ナラスノデアルカト云フ問題デアリマスルガ、
現行規定ニハ其點ニ付テハ何等明ニシテ居
リマセスケレドモ、實際ニ於テハ左様ナ通
知ハ爲サナイデアリマス、創立總會ノ通知
ニ、此會社ハコトニ依ルト止メラレルカモ
知レナイト云フヤウナコトヲ通知スルコト
ハ、蓋シ實際ニ於デアリ得ナイコト考ヘ
ルノデアリマス、ノミナラズ左様ナコトヲ
豫想スルコトガ出來ナイデ、創立總會デ種々
論議ノ末、若クハ創立總會ニ於ケル調査
ノ結果、是ハ會社ノ設立ヲ敢テ濫リニ行フ
ベキモノデハナイト云フコトニナルカモ知
レナイノデアリマス、デアリマスルカラ之
ヲ豫メ各引受人ニ通知シロト云フコトハ、
無理ナ場合ガ多イデアリマス、隨テ實際ニ
於テハ左様ナコトヲ通知事項ニハ掲ゲナイ
デ、而モ斯ル決議ヲ爲シ得ルコトニ現行法上
實際ノ運用ハナッデ居ルノデアリマス、ソレ
ヲ今度ハ法文デ明ニシタケデアリマシ
テ、此前ノ當委員會ニ於キマシテモ、其點ニ
付テ御議論ガアリマシタ、併シ今日ノ實際
上ノ狀態ヲ變更シタモノデハナイノデアリ
マシテ、實際上ノ運用狀態ヲ法文化シタニ
止マルノデアリマス、次ニ第百八十九條デ
アリマスガ、是ハ先程申上ゲマシタ預ケ合

禁止ニ關スル根本的ノ規定デアリマス、即
チ株金ノ拂込ヲ扱ヒマシタ所ノ銀行ナリ信
託會社ナリガ、拂込金ヲ預ッテ居ルト云フコ
トニ關シテ證明書ヲ出シマスルナラバ、其
證明書ノ文句ニ絕對ニ拘束サレルノデア
リマシテ、例ヘバ裏面ニ所謂預ケ合ノ契約
ガアリマシテモ、其契約ヲ以テ對抗スルコ
トガ出來ナイト云フコトヲ、明ニシタノデ
アリマス、デアリマスルカラ、預ケ合ヲ
假ニヤリマシタ所デ、拂込金ヲ預ッテ居ルト
云フ證明書ヲ出シタ以上ハ責任ガアリマス
ルカラ、ウツカリ預ケ合ノ約束ハ出來ナイト
云フコトニ相成ルノデアリマス、尙ホ罰則ノ
コトハ後ニ他ノ政府委員カラ申述べマセウ、
之ニ付テハ罰則モ掲ゲテアルノデアリマス、
次ニ第百九十條デアリマス、是ハ第一項ハ
別ニ現行法ヲ甚シク變更シタモノデハアリ
マセスケレドモ、現行法デハ法律關係ガ確
定シナイト云フ憾ミガアリマスカラ、會社
ニ對シ其效力ヲ生ゼズト云フコトヲ明ニシ
タノデアリマス、ソレカラ第二項ハ新設ノ
規定デアリマシテ、發起人ガ所謂權利株
即チ引受ニ依ル權利ヲ讓渡スルコトガ出來
ナイト云フコトヲ明ニ致シマシテ、是亦從來
ハ往々アリマシタ例デアッテ、發起人ガ株式
ヲ引受ケテ置キナガラ、ソレヲ人ニ讓ッテシ

マフ、即チ自分ガ責任ヲ回避スルト云フヤ
ウナコトガ隨分アリマシタ、即チ無責任ナ
ル發起人業者ト云フモノモ從來アリマシタ
コトハ、御承知ノ通りデアリマス、是ハ會
社法ノ精神トシテ最モ望マシカラザルコト
デアリマスカラ、之ヲ禁壓スル爲ニ斯様ナ
規定ヲ置イタノデアリマス、第百九十一條
ハ現行法ヲ補充シタモノデアリマス、株式
引受人ハ會社ノ成立後ハ錯誤若ハ株式申入
證ノ要件ノ欠缺ヲ理由トシテ、其引受ノ無
效ヲ主張スルコトガ出來ナイト云フコトヲ
新ニ加ヘマシタ、詐欺強迫ノ點ハ、是ハ現
行法ニモアツタノデアリマス、又斯様ナ引受
ノ無効ナリ取消ナリヲ主張シ得マスル場合
ニ於テモ、既ニ自分ガ創立總會ニ出席シテ
權利ヲ行使シテ居リマスルナラバ、是ハ無
効ナリ、取消ナリノ主張ガ、爾後ハ出來ナ
イト云フコトニ致シマシタ、詰リ都合ノ好
イ時ニハ自分ノ勝手ナ主張ヲシテ置キナガ
ラ、後ニ到ッテ自分ハ引受上ノ權利ハナイ
ダト主張サセルト云フコトハ、蓋シ甚シク
當ヲ得ナイモノト存ズルノデアリマス、次
ニ第百九十六條デアリマス、發起人、取締役
又ハ監査役ガ會社ノ設立ニ關シテ、會社ニ
對シテ損害賠償ノ責ニ任ズベキコトガアル
コトハ、是ハ現行規定ト同様デアリマス、

現行規定ハ斯様ニ一面ニ於テ發起人等ノ責
任ヲ定メテ居リマスルケレドモ、他面ニ於
テ此責任免除ノ制限ニ付テ何等規定ガナイ
ノデアリマス、デアリマスカラ法文上ハ嚴
格ニ責任ヲ有ッテ居リマスルモノノ、後ニ容
易スク免除ガ出來ルト云フコトニナッデ居
ルノデアリマシテ、現行法ハ首尾一貫ヲ缺
イテ居ル憾ミガアルノデアリマス、デアリ
マスカラ其不備ヲ補ヒマスルガ爲ニ、其責
任ハ會社成立ノ日カラ三年ヲ經過シタ後デ
ナケレバ免除ガ出來ナイ、而モ其免除タル
ヤ特別決議ニ依ラナケレバ出來ナイノデ
アルト云フコトヲ明ニ致シマシテ、之ヲ
嚴重ニ制限シタノデアリマス、次ニ
第百九十七條デアリマスガ、此規定ハ少數株
主權ヲ行使シナイ場合デアリマシテ、現行
規定ニモ是ト同様ノモノガアリマスルガ、
唯本案ニ於キマシテハ「會日ノ三月前ヨ
リ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ
有スル株主」ト云フコトニ致シマシテ、
詰リ昨今株式ヲ持ッタバカリノ者ハ、此少數
株主權ノ行使ガ出來ナイト云フコトニ致シ
マシタ、御承知ノ通りニ少數株主權ト云フ
モノハ、株式會社ニ於テハ固ヨリ必要デア
リマスケレドモ、是ガ隨分濫用サレテ居リ
マス、其濫用ノ點ニ鑑ミマシテ三箇月引續

株主デアッタ者デナケレバ、此權利ハ行使ガ
出來ナイト云フコトヲ、茲ニ明ニシタノデ
アリマス、第百九十八條ハ御承知ノ通りニ
昨年原案トシテ提出致シマシタモノヲ、貴
族院デ修正サレタモノデアリマス、今回ノ
案ハ貴族院修正ノ儘ヲ原案ニ致シマシタ、
昨年之ニ付テ種々御論議ノアリマシタコト
ハ私モ拜聴ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、
昨年ノ原案ニ依リマスルト「發起人ニ非ズ
シテ株式申込證、目論見書、株式募集ノ廣
告其ノ他株式募集ニ關スル文書ニ自己ノ氏
名及會社ノ設立ヲ贊助スル旨ノ記載ヲ爲ス
コトヲ承諾シタル者ハ發起人ト同一ノ責任
ヲ負フ」トアリマシタノヲ、貴族院デハ「承
諾シタル者ハ」ト云フ次ニ、「自己ヲ發起人
ナリト誤認シテ株式ノ申込ヲ爲シタル者ニ
對シ」ト云フ一句ヲ入レタノデアリマス、是
ハ御承知ノ通りニ「プロスペクタス」ノ法理
ヲ幾分茲ニ參酌シテ規定ヲ致シタノデアリ
マス、御承知ノ通りニ實際ニ於テ會社設立
ニ當リマシテ、目論見書ナドニ發起人デハ
ナイケレドモ、恰モ發起人ト同列ニ此會社
ノ設立ヲ贊助ヲシテ居ルト云フ趣旨デ、
名前ヲ連ネテ居ル人ガアルノデアリマス、
成程發起人ト書イテハアリマセヌケレド
モ、吾々法律ヲ多少心得テ居リマスル者ハ、

發起人デナイカラ發起人トシテ責ヲ負ハザ
ルモノトハ考ヘマスケレドモ、一般通常人
カラ見マスルト、恰モ發起人ト同様ノ責任
ヲ負フベキモノト考ヘラレルヤウニ名前ヲ
列ベテ居ル、所ガ實際ハ發起人デナイガ爲
ニ發起人トシテノ責任ヲ負ハナイ、斯ウ云フ
コトニナリマス、全ク會社設立ニ關シマ
シテ世上ノ人ヲ欺クヤウナ結果ニ相成ルノ
デアリマス、デアリマスカラ左様ナ人ハ發
起人ト同一ノ責ヲ負フベキモノデアルト云
フ趣旨カラ致シマシテ、昨年ノ原案ハ先程
申シタ通りデ出シタノデアリマスケレドモ、
貴族院ニ於テハ、ソレハ酷ニ失スル、自己
ヲ發起人ナリト誤認シテ株失ノ申込ヲ爲シ
タル者ニ於テノミ其責ヲ負ハセレバ宜イノ
デアルカラ、左様ニ限定スベキモノデア
ルト云フ趣旨ノ下ニ修正ニ相成ッタノデア
リマス、成程此修正ハ昨年吾々ノ考ヘテ居
リマシタモノヨリハ狭クハナリマスケレドモ、
尙且ツ是ダケデモアレバ十分デアラウト思
ハレマスノミナラズ、是ハ新設ノ規定デア
リマス、俄ニ一足飛びニ廣ク之ヲ擴張スル
ノモ如何カト思ハレルノデアリマス、旁、
以チマシテ貴族院ノ修正ヲ相當ト認メテ、
本年ハソレヲ原案ニ致シタ次第デアリマス、
左様御諒承願ヒタイノデアリマス

○西田委員 此頃株ヲ申込ミマスノニ、大
體申込ム人ハ、其會社ノ事業自體ヲ見ルヨ
リモ、寧ロ配當トカ、其株ノ價格ノ上ルト
云フコトヲノミ目的トシテ申込ム人ガ割合
ニ多イノデアリマス、隨テ發起人ト云フモ
ノハソレヲ利用致シマシテ、所謂發起屋ト
云フヤウナモノデ、ソレヲヤリマシテ、實
際現實ニ事業自體ニ對シテサウ餘リ責任ヲ
持タズニ、唯會社ヲ拵ヘルコトヲ目的ニス
ル發起人ガ、可ナリアル、ソレデ申込シタ
サウシテ創立總會ヲ開イタナラバ、大體發
起人ハソレデ發起ノ責ヲ終ッテ、後ハ取締役
ガヤッテ行ク、サウシテ其事業ガ失敗シタ
時ノ色々ノ金錢のナ損害ハ、誰ニ掛ルノカ
ト云ヘバ、株主一般ニ皆經濟的ナ損失ガ掛
ル

（宮崎委員長代理退席、委員長著席）
ソコデ、茲ニ目論見書ト云フモノガアルガ、
其目論見書ニ何カ法的效果ヲ與ヘテヤッテ、
發起人ノ事業ニ對スル責任ヲ、モウ少シ加
重スルコトニ付テ、同時ニ御考ニナッタコト
ガアルカドウカ、一遍伺ヒタイ
○大森政府委員 御尤ノ御尋デアリマス、
只今ノ御質問ノ趣旨ハ、所謂目論見書主義
ヲ以テ貫クカ、或ハ目論見書主義ヲイマ一
層廣ク此案ニ採用シタラ如何デアルカ、斯
ウ云フコトニ拜聴シタノデアリマス、此立
案ニ際シマシテモ、所謂目論見書主義ヲ採
用スルコトノ可否、又之ヲ採用致シマスル
トシテ、其範圍等ニ付キマシテ種々議論ガ
アリマシテ、慎重ニ考慮ヲ致シタノデアリ
マス、御承知ノ通りニ我ガ商法ハ所謂株式
申込書主義ヲ採シテ居リマスカラ、目論見
書主義ヲ其儘採用スルコトハ、如何カト思
ハレマスルケレドモ、併シ之ヲ全部採用シ
ナイ迄モ、相當ノ程度ニ於テ參酌致シマス
ルコトハ、只今ノ御説ノ通り全ク適當ナコ
トト存ズルノデアリマス、デアリマスルカ
ラ、其趣旨ニ於キマシテ第百九十八條ヲ設
ケタノデアリマス、其參酌ノ程度ガ十分デ
アルヤ否ヤト云フ所ニ、問題ノ餘地ガ存ス
ルカト存ズルノデアリマス、尙ホ所謂發起
人商賣ト云フノガ實際ニ於テ往々ニアリマ
シテ、其風習ハ固ヨリ宜シカラザルコトデア
リマスルカラ、發起人ノ責任ヲ嚴格ニスル
點ニ付キマシテハ、此案ニ於キマシテモ數
種ノ必要ナル規定ヲ設ケタ次第デアリマス
○仲井間委員 百九十八條ニ關聯致シマシ
テ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、百九十八條
ニ規定サレテ居ル條文ノ趣旨ハ能ク分ッテ
居リマス、又貴族院ノ修正ノ要求ニ對シテ
政府ガ其修正通りニ御緩和サレタ點モ、能

ク其趣旨ハ分ツテ居リマス、所謂修正前ノ原案デアリマスルガ、是ハ先ノ委員會デモ大分議論ニナツテ居リマシテ、御答辯ニナツテ居ル趣旨ヲ讀ンデ見マスルト、政府ノ御考ニナツテ居ル點モ十分ニ諒解ガ出來ル點ガアルノデアリマス、唯併シドツチガ宜イノカ、元ノ案ガ宜イノカ、今度ノ貴族院ノ修正ニ應ジテ出來上リマシタ此原案ガ宜イノカト云フコトノ問題ト、モウ一ツハ此修正後ノ原案ガ實際ノ場合ニ於テドレダケノ效用ヲ爲スモノデアアルカト云フ二點デアリマス、第一點ノ、何レガ第三者保護ニ徹底シテ居ルカト申シマスレバ、是ハ言フ迄モナク政府ノ元ノ原案ガ第三者ヲ保護スル、從來會社ヲ設立スルニ付キマシテ、堅實ナ會社ニ限ツテ、サウ云フコトハアリマセスガ、所謂「インチキ」ナ會社ニ限ツテ、又餘リ世人ニ信用ガナイ會社ニ限ツテ、人ノ名前ヲ借りテ、贊助員ダトカ賛成員ト云フヤウニ、ヨクヤツテ居ル、サウ云フ會社ニ限ツテ餘リ信用ガナイ、ソレニ對シテ、サウ云フ人達ガ贊助員ニナツタト云フ爲ニ、損害ヲ被ツタ例ガ多い、第三者ヲ保護スルト云フ點ニ付キマシテハ、非常ニ私共ハ政府ノ元ノ案ニ對シテ賛意ヲ表スルノデアリマス、又今度ノヤウナ緩和サレタ理由ニ付キマシテモ、

能ク承知ハシテ居リマスガ、假ニ若シ政府ノ元ノ原案ニ直シテ、今度ノ法規ニ修正ヲ加ヘルト云フト、又貴族院ニ廻ッテ彼處デ色々審議ヲシナケレバナラスト云フコトノ面倒ガアリマスノデ、色々ノ支障ヲ來スコトニ付キマシテハ、私共モ先ヅ此法ノ施行ヲシテ、其結果ニ依ッテ後日又改正スベキ機會モアラウカト存ジマシテ、其點ハ此原案通りヲ支持シテ宜カラウトモ考ヘテ居リマス、所ガ將來元ノ原案通りノ規定ヲ以テスルコトガ、第三者保護ニ適當デアアルト云フ事情ガアル場合モアルカモ知レマセヌノデ、ドウゾ其點ハ十分ニ世上ニ行ハレテ居ル色々ナ事情ヲ、今後御注意ヲ下サイマシテ、能ク御檢討下サルコトヲ御願スル迄デアリマス、ソレニ關聯シテ第二ノ、今度ノ案デドウ云フ結果ニナルカ、成程是ハ發起人デハナイ、贊助員デアルト斯ウ考ヘタ人ヲ保護スル必要ハ、固ヨリナイノデアリマス、發起人ト同一ノ責任ヲ發起人デナイ人ニ負ハセルト云フコトハ、是ハ理由ガ成立タヌノデアリマスガ、サリトテ贊助員ト云フコトヲ明ニ書イテアルノニ、第三者ガ、是ハ贊助員デハナイ、單ニ贊助ヲシテ居ルノミデナクテ、發起人ト同一ノ責任ヲ持ツモノデアルト誤認スルト云フコトハアル、

サウ云フ場合ニ假ニ訴訟ガ提起サレタ場合、問題ガ生ジタ場合ニ、贊助人ハ明ニ贊助人ト書イテアルデハナイカ、贊成人ハ贊成人ト書イテアルデハナイカ、贊成人ハ發起人トハ同一ノモノデハナイト云フコトヲ主張致シタ場合ハ、本當ノ發起人デアルト誤認シタ方デ、舉證ノ責任ガアルノデアリマス、此舉證ノ責任ト云フモノハ、前ニモ政府委員ノ御説明ニ依リマス、實際ニ於テ相當ノ知識アリ、學問ノアル人ナラバ、ソレハ贊助員ト發起人ハ別ナモノデアアルコトハ能ク分ルケレドモ、無學ノ者、無筆ノ者ニ對シテハ、贊助員ト發起人ノ區別ガハッキリ分ラヌ場合ガアル、斯ウ仰シヤラレタノデアリマス、併ナガラ實際ノ問題ガ生ジタ場合ニ、是ハ贊助員ト書イテアルガ、發起人ト間違ッタ事情ニアルト云フコトハ、事實上ノ裁判問題ニナリマシテハ、中々立證ガ困難デゴザイマス、一應ハ贊成人ト書イテアルカラ贊成人ト認ムベキデアル、ソレヲドウシテ發起人ト誤認シタカト云フ點ニ付キマシテハ、是ハ容易ニ判斷ガ付クヤウナモノデハナイ、成程理論ツクメデ言ヘバ、サウ云フ場合モアリ得ルト云フ點ダケデアツテ、實際ニ於テ贊助員ト發起人ト同一ノモノダト云フヤウニ誤認ヲシテ居ッタト云フ心理状態ヲバ、ソレヲ立證シ

テ行クト云フコトハ頗ル困難ノコトデアリマス、形ダケノ條文デアツテ、實際ニ運用ガ出來ル機會ト云フモノガアルカドウカ、ソレハ理論トシテ想像ハ出來ルコトデアリマスケレドモ、實際ノ場合ニ實例トシテ現レテ來ルカドウカト云フコトハ、非常ニ疑問デアリマシテ、折角財産保護ノ方針ヲ以テ此法ヲ編マレタ御趣旨ガ、貴族院ノ修正ニ依ッテ全ク破壊サレタト云フコトニナツテ居ルノデハナイカ、何等カノ方法デ元ノ原案ニ直サレル、貴族院トノ關係デ直サレルト云フヤウナコトガアリマシタナラバ、非常ニ結構ト考ヘテ居リマス、其點ハ餘リ追及ハ致シマセスケレドモ、如何ニ御考ニナツテ居ラレルカ、其點ヲ承リタイ

○大森政府委員 御同情ノアル御注意デアリマシテ、感謝ヲスル次第デアリマス、此貴族院ノ昨年ノ修正案ヲ、今回ノ原案トスベキヤ否ヤニ付キマシテ、私共ハ十分ニ研究モシ調査モ致シタノデアリマス、結局ノ岐レ目ハ只今ノ御指摘ノ通り、贊助員ト實際ニハナツテ居ル、發起人ト云フ文句ハ使ツテナカッタ、併シ自分ハ是ハ所謂商法ニ發起人ガ負ツテ居リマスルソレダケノ内容ノ責任ヲ持ツモノナリト信ジテ居ッタ、斯ウ云フコトノ立證ノ點デアリマス、私共ハ此立證

ガ困難デアルカ、比較的容易デアルカト云フ點ニ思ヒテ致シタノデアリマス、此商法案ハ御承知ノ通り專ラ實際上ノ見地カラ、實際ニ適應スルヤウニ考ヘタノデアリマシテ、隨テ觀念上是ガ宜イノデアアルカ、理論上是ガ宜イノデアアルカト云フ點ヨリモ、實際ニ適スルカ否カト云フコトニ重キヲ置イタノデアリマス、此見地カラ考ヘマシテ、賛助員ト成程アノケレドモ、是ガ丁度所謂發起人ノ持ツヤウナ責任ヲ負フモノデアラウト信ズルコトニ付テ、其人ノ學識ナリ、又其人ノ生活ノ環境ナリ、又新聞其他ノ公告ノ狀態ナリ、ソレ等ヲ綜合致シマシテ、必シモ決シテ困難デハナイカト云フ見極メガ付キマシタガ故ニ、此修正案ニ賛成ヲ致シタノデアリマス、固ヨリ是ハ裁判ニ依ッテ決スルコトデアリマスルカラ、私ガ今日はハ極メテ難カシイ、ソレハ非常ニ易イト云フコトハ、甚ダ無責任ノヤウデハアリマスケレドモ、私共ニ關スル限リニ於テ必シモ困難デナイト云フ確信ヲ得マシタガ爲ニ、之ヲ原案トシタ次第デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○仲井間委員 緩和サレタ規定デハアリマスルガ、是ハ誤認シタノヲ救済スル意味ガ、第一義的ニ含マレテ居ルト云フコトハ勿論

デアリマスガ、又第二次的ニサウ云フ規定ヲ置イテ置ケバ、徒ニ輕率ニ他人ノ會社ノ賛助員ヤ、或ハ贊成人ト云フコトヲ輕々シク從來ノヤウニ名前ヲ借スト云フコトヲ、段々遠慮スルヤウニナツテ來テ、堅實ナル賛助員ガ出來、堅實ナル援助ヲスルト云フ人ガ段々出テ來ルト云フコトヲ、幾ラカ其處ヘ考ヘル、其方面ノ對策ニモ御考ニナツタデアリマセウカ

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマシテ、此誤認シタ第三者ヲ保護シマスルト共ニ、左様ナ場合ニ發起人ト同一ナ責任ヲ負フノデアリマスカラ、今後無責任ナ所謂賛助員ノ現レルコトノナイヤウニ、此一舉兩得ヲ考ヘマシテ此規定ヲ立案シタ次第デアリマス

○西田委員 是ハ此次ノ章デ御尋シタガ宜イカト思ヒマスガ、第百八十八條デゴザイマス、「數種ノ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ各種ノ株式ノ内容及數」トアリマスガ、是ハ優先株並ニ後配株ダケニ限ラレテ居ルノデスカ、實ハ實際ノ實例ヲ申シマスト斯ウ云フ場合ニ非常ニ弱ツタ實例ガアリマス、現物出資ノ場合ニ、現物出資ヲスル株ヲ全額拂込ノ株ニシタイ、金ヲ出ス者ハ四分ノ一拂込ノ株ニシタイ、ソレハ現物出資スル人

ノ權利ヲ四分ノ一ニシマスルト、餘リニ株數ガ多クナツテ、議決權ガ非常ニ大キクナツテ困ルノデ、ソレデ受付ヲ制限シヨウト云フ意味合デアラウト云フ時ニ、大變實例トシテ困ル場合ガアリマス、此創立ノ時ノ拂込均一ニシナケレバナラスト云フノデナク、サウ云フ風ナ拂込均一ナラザル株ノ募集ガ出來ルカト云フコトデス

○大森政府委員 御説ノ通りデアリマシテ、現物出資ヲ認メマシタ場合ニハ、現物出資ハ此案デハ明ニ全部一時ニ提供トナツテ居リマスルカラ、之ニ對シテ與ヘマスル株式ハ全額拂込デアルト云フコトヲ常ト致シマス、デアリマスルカラ現物出資ガアリマスル場合ニ、拂込金ヲ異ニスルト云フコトハ固ヨリアリ得ルト存ズルノデアリマシテ、其關係ハ只今御指摘ノ條文ノ第一項第五號デ明ニナルノデハナイカト存ジテ居リマス

○森委員 此第百六十六條ノ舊法ニ依リマス、第五ニ取締役ノ株數ヲ記載スル、株式ヲ持タネバ出來スコトニナツテ居ルノガ、今度ハ特ニ削ッテアルヤウデス、是ハ會社ト云フモノハ總テノ商行爲ヲ爲スニ於テハ、取締役ガ各會社ヲ代表シテアルノデアアルカ、相當責任ノアル人ニシテ貫フ方ガ安心ダト私等ハ思ヒマスルガ、株式ヲ持タヌ人

デモ取締役ニナレルト云フヤウナコトヲ、元ノモノヲ外ニシテシマツテ、故ラニ御記入ニナツタコトノ理由ハ何處ニアルカ、一寸御聽カセヲ願ヒタイ

○大森政府委員 本案ニ於キマシテハ取締役、監査役ハ、必シモ株主タルコトヲ要シナイヤウニシタノデアリマス、是ハ本案ノ第二百五十四條第一項デアリマス、其趣旨ハ廣ク適材ヲ求メ得ルニ適スルト云フコトト、御承知ノ通りニ今日取締役、監査役ハ株主ニ限定サレテ居リマスルカラ、廣ク適材ヲ他カラ求メルト云フ場合ニ、株式ヲ貸シテヤルカシテ、所謂假裝ノ株主ニシテソレヲ取締役、監査役ニ選任スルト云フ事例ニ相成ツテ居リマス、是ハ脫法的ノ行爲デアリマシテ、斯様ナ脫法的ノ行爲ヲ決シテ無効トハ申シマセスケレドモ、ソレガ公々然ト行ハレテ居ルト云フコトハ、旁、以テ法ヲ蔑視スル端ヲ開クカトモ存ズルノデアリマス、ノミナラズ株ヲ貸シテヤリマスル其返還等ノ問題ニ付テ、往々ウルサイ事例ヲ生ジタコトガアリマス、其假裝株主タル取締役ガ死ンデシマヒマシテ、結局假裝デアルカナイカ分ラナクナツテ、其相續人ガ丸腰ニナツテ居直ッテシマッタト云フ例モアルノデアリマス、其他種々ノ弊害モアリマスル

カラ、之ニ鑑ミマシテ取締役、監査役ハ株主タルコトヲ要シナイヤウニ致シマシタ、デアリマスルカラ定款ノ絶對的必要事項カラ御指摘ノ分ヲ除イタノデアリマス、尤モ斯ク致シマシタモノ、此案ハ決シテ株主以外ノ者カラ取締役、監査役ヲ持ッテ來ルト云フコトヲ強制スルモノデハ毛頭ナイノデアリマシテ、會社ニ於キマシテ株主デナケレバ取締役、監査役ニナレナイト云フ旨ノ定款ノ定メヲ爲スコトモ有效デアリマス、只今申シマシタヤウナ事弊ニ鑑ミマシテ、選任ノ範圍ヲ擴メタツケノ話デアリマス

○森委員 御説ヲ承リマス、御尤ナヤウデモアリマスケレドモ、何億ト云フヤウナ會社デアレバ、ソレハ多クノ株ヲ持タヌ人デモ宜カラウト思ヒマスケレドモ、一千万位ノ端會社デシタラ、ヤハリ取締役ニナル人ハ相當ナ株ヲ持ッテヤッテ吳レタ方ガ宜イト思ヒマス、私ハ餘リサウ云フコトヲ詳シク調べテハ居リマセスケレドモ、併シ一人デ何割トカ云フヤウナ株ヲ持ッテ社長トカ、取締役會長トカニナッテ居ル會社ハ、何レモ確實デアルケレドモ、團栗ノ脊比ベミタイナ、二百ヤ三百ノ株ヲ持ッテ、株主以下ノ人ガ取締役ニナッテ居ルヤウナ會社ハ確實デナイ、又多ク破算等ノ憂目ニ遭フノモ

ソシナノガ多イト思ヒマスノデ、此規定ハ別ニ御除キニナラナクテモ、但書ニ御入レニナッテモ宜カリサウナモノト思ヒマスガ、其邊ハ如何デゴザイマセウカ

○大森政府委員 其點ハ昨年當委員會ニ於キマシテ、又貴族院ニ於キマシテモ相當問題ニハナツタノデアリマス、併シ先程モ申シマシタ通りニ、會社ニ於テ株主デナケレバイケナイト云フヤウニシタイノナラバ、定款ニサウ定メテ宜イノデアリマシテ、何等弊害ヲ伴ハナイト存ズルノデアリマス、左様ナ趣旨ノ御納得ヲ願ヒ得タモノト見エマシテ、貴族院デハ修正ガアリマセヌデシタ、又當委員會ニ於テモ、多數ノ御意向トシテ此點ニ關シテ本案ヲ改メルト云フヤウナ御意見ハナカッタヤウニ拜承ラシテ居ルノデアリマス

○森委員 イヤ別ニ固執スル譯デハアリマセヌカラ、其位デ結構デアリマス

○仲井間委員 ソレデハ第百六十七條ニ付テ御伺致シタイト思ヒマス、定款ノ保存スベキコトハ、今更申上ゲル迄モナク、定款ノ堅實ナル存在ガ必要デアリマスルガ、之ヲ公證人ノ認證ニ依ッテ保存スル、又公證人ノ居ナイ所ハ裁判所ノ書記ガ公證人ノ仕事ヲ取扱ッテ居ルノデアリマスガ、私ハ其結果

カラ見て、何トカソレカラ生ズル所ノ弊害ヲ防止致シタイト考ヘテ居リマスガ、例ヘバ裁判所ノ名前ヲ持ッテ來ルトカ、公證人ノ名前ヲ持ッテ來ルトカ云フコトニナリマスルト、此公證人、裁判所ト云フ名前ダケデ、世間ノ信用ヲ非常ニ高メルコトニナルノデス、譬ヘテ申上ゲマスレバ、私共モヨクヤッテ居リマスガ、何カ書面ヲ送達スル場合ニ、内容證明ヲ持ッテ行クトカ、執達吏送達ト云フコトニナルト、債務者ガソレヲ受取ツタ時ニ效果ガアル、郵便デ送達スルノモ、執達吏ガ送達スルノモ、同じ送達デハアリマスケレドモ、執達吏ガ來タト云フダケデ、債務者ニハ效力ガアルヤウデアリマス、如何ニモ其處ニ特殊ナ法律的效果ガ生ズルヤウニ世間ハヨク考ヘマスノデ、私共ノ仕事ノ場合デモ、執達吏ノ送達ガ出來ル所ハ、費用ハ少シ餘計ニ掛ッテモ構ハヌカラ、執達吏ヲシテ送達ラシテ貰ヒタイ、斯ウ云フ風ニヨク言ッテ來ルノデアリマス、餘リ有力デナイ會社ガ、僕等ノ定款ト云フモノハ、チャント公證人ノ認證ヲ得テ居ル、又公證人ノ居ナイ所ハ裁判所ガチャント認メテ、斯ウ云フ風ニヤッテ居ルノダ、ダカラチットモ疑ガナイ、堅實ナ會社デアアル、サウシテ認證ヲ裁判所ガシタト云フコトデ以テ、ソレヲ

振廻シテ會社ノ信用ヲ裏書セシメルト云フヤウナコトニ利用サレル虞ガアルノデハナイカ、保存スルコトハ極メテ適當デハアリマスケレドモ、其方法ニ依ッテ保存スルコトガ、色々弊害ヲ生ゼシムル一ツノ手段タルガ如キ結果ニナリハシナイカト云フコトニ付テ、憂ヘテ居ルノデアリマスガ、ソレニ對スル何等カ對策ヲ講ズルトカ、或ハサウ云フ弊ニ陥ラナイヤウナ方法ヲ御考ニナッテ居ラレルカドウカ、其點モ御伺申上ゲタイト思ヒマス

○大森政府委員 此公證人ノ認證ヲ經マサルコトガ、株式會社中ノ或者ニハ之ヲ爲サシメ、或者ニハ之ヲ爲スノ必要ガナイト云フコトニ致シマスナラバ、ソレハ或ハ御懸念ノヤウナ結果ガ生ズルカモ知レマセヌ、即チ是ハ公證人ノ認證ヲ經タノデアアル、政府デ以テ獎勵シテ居ル會社デアアル、政府デ保證シテ居ル會社デアアルト云フヤウナ感ヲ、民間ニ懷カシムルコトニナルカモ知レマセヌガ、併シ本條ハ株式會社ヲシテ一樣ニ此認證ヲ必要トセシムルモノデアリマスカラ、先ヅ左様ナ懸念ハナクシテ濟ムノデヤナイカト思ッテ居リマス、又尙ホ此保存ヲセシムルコトハ固ヨリ御説ノ通り必要デアリマスガ、然ラバ何處ニ保存セシムルカ

カラ、之ニ鑑ミマシテ取締役、監査役ハ株主タルコトヲ要シナイヤウニ致シマシタ、デアリマスルカラ定款ノ絶對的必要事項カラ御指摘ノ分ヲ除イタノデアリマス、尤モ斯ク致シマシタモノ、此案ハ決シテ株主以外ノ者カラ取締役、監査役ヲ持ッテ來ルト云フコトヲ強制スルモノデハ毛頭ナイノデアリマシテ、會社ニ於キマシテ株主デナケレバ取締役、監査役ニナレナイト云フ旨ノ定款ノ定メヲ爲スコトモ有效デアリマス、只今申シマシタヤウナ事弊ニ鑑ミマシテ、選任ノ範圍ヲ擴メタツケノ話デアリマス

○森委員 イヤ別ニ固執スル譯デハアリマセヌカラ、其位デ結構デアリマス

○仲井間委員 ソレデハ第百六十七條ニ付テ御伺致シタイト思ヒマス、定款ノ保存スベキコトハ、今更申上ゲル迄モナク、定款ノ堅實ナル存在ガ必要デアリマスルガ、之ヲ公證人ノ認證ニ依ッテ保存スル、又公證人ノ居ナイ所ハ裁判所ノ書記ガ公證人ノ仕事ヲ取扱ッテ居ルノデアリマスガ、私ハ其結果

カラ見て、何トカソレカラ生ズル所ノ弊害ヲ防止致シタイト考ヘテ居リマスガ、例ヘバ裁判所ノ名前ヲ持ッテ來ルトカ、公證人ノ名前ヲ持ッテ來ルトカ云フコトニナリマスルト、此公證人、裁判所ト云フ名前ダケデ、世間ノ信用ヲ非常ニ高メルコトニナルノデス、譬ヘテ申上ゲマスレバ、私共モヨクヤッテ居リマスガ、何カ書面ヲ送達スル場合ニ、内容證明ヲ持ッテ行クトカ、執達吏送達ト云フコトニナルト、債務者ガソレヲ受取ツタ時ニ效果ガアル、郵便デ送達スルノモ、執達吏ガ送達スルノモ、同じ送達デハアリマスケレドモ、執達吏ガ來タト云フダケデ、債務者ニハ效力ガアルヤウデアリマス、如何ニモ其處ニ特殊ナ法律的效果ガ生ズルヤウニ世間ハヨク考ヘマスノデ、私共ノ仕事ノ場合デモ、執達吏ノ送達ガ出來ル所ハ、費用ハ少シ餘計ニ掛ッテモ構ハヌカラ、執達吏ヲシテ送達ラシテ貰ヒタイ、斯ウ云フ風ニヨク言ッテ來ルノデアリマス、餘リ有力デナイ會社ガ、僕等ノ定款ト云フモノハ、チャント公證人ノ認證ヲ得テ居ル、又公證人ノ居ナイ所ハ裁判所ガチャント認メテ、斯ウ云フ風ニヤッテ居ルノダ、ダカラチットモ疑ガナイ、堅實ナ會社デアアル、サウシテ認證ヲ裁判所ガシタト云フコトデ以テ、ソレヲ

振廻シテ會社ノ信用ヲ裏書セシメルト云フヤウナコトニ利用サレル虞ガアルノデハナイカ、保存スルコトハ極メテ適當デハアリマスケレドモ、其方法ニ依ッテ保存スルコトガ、色々弊害ヲ生ゼシムル一ツノ手段タルガ如キ結果ニナリハシナイカト云フコトニ付テ、憂ヘテ居ルノデアリマスガ、ソレニ對スル何等カ對策ヲ講ズルトカ、或ハサウ云フ弊ニ陥ラナイヤウナ方法ヲ御考ニナッテ居ラレルカドウカ、其點モ御伺申上ゲタイト思ヒマス

○大森政府委員 此公證人ノ認證ヲ經マサルコトガ、株式會社中ノ或者ニハ之ヲ爲サシメ、或者ニハ之ヲ爲スノ必要ガナイト云フコトニ致シマスナラバ、ソレハ或ハ御懸念ノヤウナ結果ガ生ズルカモ知レマセヌ、即チ是ハ公證人ノ認證ヲ經タノデアアル、政府デ以テ獎勵シテ居ル會社デアアル、政府デ保證シテ居ル會社デアアルト云フヤウナ感ヲ、民間ニ懷カシムルコトニナルカモ知レマセヌガ、併シ本條ハ株式會社ヲシテ一樣ニ此認證ヲ必要トセシムルモノデアリマスカラ、先ヅ左様ナ懸念ハナクシテ濟ムノデヤナイカト思ッテ居リマス、又尙ホ此保存ヲセシムルコトハ固ヨリ御説ノ通り必要デアリマスガ、然ラバ何處ニ保存セシムルカ

ト云フコトニナリマス、隨分困ルノデア
リマス、結局色々考慮ヲシマシタ結果、公
證人役場ガ最モ適當デヤナイカト、斯様ニ
考ヘタノデアリマス、御承知ノ外國ノ實例
ニ於キマシテモ、多ク此公證人役場ノ主義
ヲ執ッテ居ルモノガアルヤウデアリマス、旁
ソレニ倣ッタヤウナ次第デアリマス

○仲井間委員 何カ別ナ從來ノ登記ノ方法
デハ出來ヌモノデアリマセウカ、今ノ御説
明ニ依リマス、一般的ニ劃一的ニ皆會社
ハ定款ヲ公證人ニ認證ヲ求メルノデアアルカ
ラ、個々のニ區別ガアル譯デハナイカラト
仰シヤルノデアリマスケレドモ、ソレハ併
シ一般的ニヤリマシテモ、相當法律ヲ知ッテ
居ル人デアルトカ、上層ノ人ニナリマス、
サウ云フ懸念ハアリマセスケレドモ、庶民
階級ノ一般ノ人ニ對シテハ、劃一的ニ區別
ガナイニシテモ、誤解ヲ受ケル、ヤハリ送
達ヲスルノニ執達吏ニ送達サシタ方ガ如何
ニモ何處カ隱レタ威力ガアルヤウニナッテ
來ルノト同ジデアル、ソレハ相當ノ法的知
識ノアル人ニハ何等區別ガアリマセスケレ
ドモ、法律ヲ餘リ解シナイ所ノ一般人ニ付
テハ、今日デモヤハリ内容證明郵便ガ來タ
トカ、或ハ今ノ執達吏送達ガ來タトカ、又
裁判所ノ呼出ガ來タトカ申スト非常ニ心配

スル、何カ非常ニ力ガアルヤウニナッテ居ル
是ハ事實ニ於テアルノデアリマスカラ、會
社ノ株ヲ募集スルトカ、或ハ又會社ト取引
ヲ勸誘スル際ニ、裁判所ガ斯様ニ認識シテ
居ルノダト云フコトハ、劃一的デハアリマ
スケレドモ、會社ハサウハ言ハナイ、一般
的ニ定款ハ認證スルヤウニナッテ居ルノダ
ト云フコトヲ言ハナイデ居テ、自分等ノ會
社バカリ裁判所ガ認證シテ貰ッテ居ルカノ
如クニ言ヒ觸ラス場合ガアルカモ知レナイ、
是ハ新シイ法律デアリマスカラ、一般ノ人
ハ知ッテ居リマセヌ、却テ斯ウ云フ機會ニソ
レヲ利用シテ、サウ云フ宣傳ヲスルカモ知
レナイ、何トカソコヲサウ云フヤウナ弊ニ
陷ラナイ方法ガ考ヘラレテ居ッタナラバ、ソ
レヲ防止シタイヤウナ氣ガ起ル、何カ登記
トカ外ノ方法デ出來ナイモノカ、要スルニ
公證人ナラ宜イノデス、公證人ナラソレハ
普通ノ民事ノ取引デハ皆公證人ニナッテ居
リマスガ、裁判所ガ公證人ノ仕事ヲヤッテ
居ルノデ、私共ノ田舎邊リデハ誤解ヲ招ク
嫌ガアリハセスカト考ヘテ居ル次第デアリ
マス

○大森政府委員 御指摘ノ通りニ公證人ノ
居ナイ所ハ、公證人ノ事務ヲ裁判所ノ書記
ガ取扱ッテ居ル所ガ多少アルノデアリマス、
成ベク左様ナ所モ總テ公證人ニシタイノデ
アリマスケレドモ、中々公證人ニナリ手ガ
ナイト云フヤウナコトモアリマシテ、實ハ
全國一般的ニ公證人ヲ分布スルト云フ程度
ニ至ッテ居ナイノハ遺憾ニ存ズル次第デア
リマス、ソレニ只今仰セニナリマシタヤ
ウナ御懸念ノ點ニ付キマシテハ、實施期間
ガ一年モアルコトデアリマスカラ、私共
ノ方デ出來得ル限り、株式會社ニハ總テ此
公證ガ要ルノダト云フコトヲ明ニ致シマシ
テ、其實實ガ世間ノ總テニ分リマスルヤウ
ニ、十分ノ努力ヲ致シタイト存ジテ居リマ
ス

○仲井間委員 此公證ノ方法デアリマスル
ガ、是ハ公證人ノ居ル所ハ便利デアリマス
ルガ、公證人ノ居ナイ場合ハ、大抵區裁判
所ノ書記ガ、ソレヲ取扱ッテ居ル、其區裁判
所ノ中デモ取扱ッテ居ル區裁判所モアレバ、
取扱ッテ居ナイ區裁判所モアリマス、又隨分
不便ナ所デアッテ、而モ又區裁判所ノナイ所
モアル、斯ウ云フ所ニハ適宜其公證ノ事務
ヲ——一般的ノ公證ノ事務ヲ執ラセルカド
ウカト云フコトニ付キマシテハ、色々御調
査モアレララウト思ヒマスルガ、少ク
トモ會社ノ定款ノミニ付テハ、會社ノ設立
ニ關スルモノノミニ付テハ、相當廣ク公證
人ノ仕事ヲサセタイト云フノガ、普通一般
ノ希望デアラウト思フノデアリマスルガ、
ドウデスカ、此點ノミニ付キマシテハ、區
裁判所ノナイ所ハ、適當ノ場所ヲ御調査ニ
ナリ、御指摘サレマシテ、登記所カ何カニ
裁判所ノ書記ガ居リマスカラ、其登記所
邊リデモ、内容ヲドウスルト云フ譯デハナ
ク、ソレハ認證スルダケデアリマスカラ
其點ガ簡便ニ出來ル方法ヲ施行カ何カデ
御採リニナルヤウナ御意向ハアリマセヌカ、
又御考ニナッテ居ナケレバ、此處デ私共御願
ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス

○大森政府委員 只今御希望ノ點ハ篤ト考
究ヲ致シマセウ、御無理ノナイ點ダト思ヒ
マス、デスカラ私共モ事務ノ都合上、出來
得ル限り御趣旨ニ副ヒタイト存ジマス

○仲井間委員 第百六十八條ノ「現物出資ノ
點デスガ、百六十八條ノ「現物出資ハ發起人
ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得」ト、ソレカラ第百
七十二條ノ「出資ノ目的タル財産ノ全部ヲ給
付スルコトヲ要ス」詰リ現物出資ハ發起人ニ
限リタル理由、是ハ曩ニ御説明ガアッタカ
モ知レマセヌガ、私聽キマセヌノデ御尋致
シタイト思ヒマス、モウ一點ハ、發起人ハ
第一回ノ拂込ニ全額出資ヲ致スノデアリ
マスルガ、外ノ株主ハ五十圓株デ四分

ノ一ノ十二圓五十錢ノ拂込ヲスル、詰リ四分ノ一拂込ニナツテ居ル譯デアリマス、其發起人ガ株主ニナル場合ニハ、現物株式ニ代ヘルノデアリマスルカラ、ソレハ検査役ガ検査ヲシテ價格ヲ評價スルノデアリマセウ、サウ云フ場合ニヤハリ十二圓五十錢ト言ッテ株ノ四分ノ一ニ評價ヲシテ、ソレヲ澤山割當テテ株ヲ發行スルノデアアルカ、或ハ又其株ヲ全額拂込トシテ計算シテ行クノデアリマスカ、左様デアリマスルト、詰リ株式ノ中ニ四分ノ一拂込ノ株式ト全額拂込ノ株式トノ二種類アル、成程今度ノ商法ノ立前ハ株式ニ色々ノ種類ヲ御豫想サレマシテ、規定サレテ居ルノデアリマスガ、詰リサウ云フ株式ガ――

優先株、後配株ト云フノハサウ云フ關係デナイカモ知レマセヌケレドモ、其全額拂込ノ株式ニ對シテ會社ハ如何ナル優待ノ方法ヲ執ツテ居ルノデアリマセウカ、或ハ規定ガアルカモ知レマセヌガ、マダ私思付キマセヌ、其點ヲ御教示ヲ御願シタイト思フノデアリマス、詰リ全額拂込ノ株ト一部拂込ノ株ト待遇ノ方法デアリマス

リニナルデアラウト思フノデアリマス、ト申シマスルノハ、現物出資ハ定款ニ其旨ヲ記載シテ置カナケレバナライノデアリマスルカラ、定款作成當時ニ決ッテ居ナケレバナライノデアリマス、而シテ定款ノ作成者ガ發起人デアリマスルカラ、發起人以外ノ者ハ之ニ携ハルコトガ出来ナイカト思フノデアリマス、隨テ現物出資者ハ發起人ニ限ルト云フコトハ、現行法ノ解釋トシテモ、サウ言ヒ得ルト思ヒマスガ、單ニ解釋上ノ問題デモデアリマスカラ、反對論ハナキニシモアラズデアリマス、ソレヲ法文ニ明ニシテ、定款作成者以外ノ者ガ之ニ關係スルト云フコトノナイコトヲ明ニシタノデアリマス、ソレカラ現物出資ノ提供ノ問題デアリマス、現物出資ハ御承知ノ通り、唯金デ拂フ代リニ品物ヲ以テスルト云フダケノ意味デハナイヤウニ存ズルノデアリマス、ソレヲ本ニシテ會社ノ經營ヲスル、斯ウ云フモノデアリマスルカラ、是ハ會社成立ノ時ニ全部揃ッテ居ナケレバナライ性質ノモノニ屬スルノデアリマス、又現物出資ハ御承知ノ通りニ、定款作成ノ時ニ評價ヲ決メマシテ、評價ヲ決メタ後二十年後若クハ十數年後ニ其物ヲ受取ルト云フコトニナツテ居リマスルノデ、値下リガ生ジテ參リマス、

値上リノ場合モアリマセウケレドモ、先ヅ値下リノ場合ガ多イダラウト思フノデアリマス、要スルニ現物出資ヲ即時全部受取ルト云フコトニシナケレバ、危險ヲ伴ヒ易イト存ズルノデアリマス、其結果現物出資ニ付テハ全額拂込済ノ株ヲ渡シ、金錢出資即チ株金拂込ノモノニ付テハ、第一回四分ノ一拂込デアレバ四分ノ一拂込ダケノ株ヲ渡スト云フコトニ相成ルノデアリマス、然ラバ全額拂込済ノ株ト一回ダケ拂込シタ株ト其優劣ハ何處ニ生ズルカト申シマスルト、御承知ノ通り利益配當ノ場合、拂込シタ株金ノ額ニ應ジテ配當ヲ致シマスルカラ、其處ニ差等ガ現レルノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○仲井間委員 其點ハ能ク分リマシタ、此程度ニシテ置キマス、預ケ合ヒ防止ノ關係デ少シク御伺シタイト思ヒマス、所謂預ケ合ヒ防止ト云フ規定ヲ置カレマシタコトハ、非常ニ結構ナコトデゴザイマシテ、從來一般カラ期待サレテ居タモノデアリマス、ソレニ付テ從來株金ヲ拂込ム際ニ、マアソレハ實際ハ銀行或ハ信託會社ニヤツテ居タノデアリマスガ、個人ニデモ其拂込ヲ爲スベキ場合モ豫想シ得タノデアリマス、今後ハ此規定ニ依リマシテ、株金ノ拂込ヲ取扱フ

ベキ者ハ銀行ト信託會社ニ限ルト云フ立前デ規定サレタノデアリマスカ、或ハ又其コトヲ記載スレバ個人デモ株金ノ拂込ヲ取扱ッテ然ルベキモノデアルト云フ風ニモ、考ヘラレスコトモアリマセヌガ、之ヲドウ云フ風ニ取扱ッテ宜イカト云フ點デアリマス

○大森政府委員 本案ニ於キマシテハ、銀行及信託會社ニ限定スル趣旨デアリマス、詰リ是等ガ比較的基礎ガ確實デアアルカラデアリマシテ、今日ノ實際カラ見マシテモ、自然人ニ之ヲ扱ハシメテ居ル例ハ、恐ラクハ絶無デアラウト思フノデアリマス、實際ノ例ノ有無ハ兎ニ角ト致シマシテ、銀行、信託會社ニ限局スルト云フ積リデ進ンデ居リマス

○佐竹委員 定款ハ公證人ニ於テ認證シナケレバ、效力ガナイト云フコトニナツテ居リマスガ、定款變更ノ場合ハ認證スル必要ハナイノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 御説ノ通りデアリマシテ、是ハ原始定款ダケノ積リデアリマス、然ラバ何故定款變更ノ都度認證シナイノデアアルカ、不完全デアルト云フ御疑モアリマモウガ、其都度認證サセルノハ餘リ煩ニ堪ヘナイデアラウト云フコトガ一ツト、原始定款ガ既ニ認證ニナツテ居リマスレバ、其後ノ定

款變更ニナリマシタ重要ナモノハ、必ズ登記事項ニナッテ居リマス、デスカラ其時ノ登記事項ト認證サレタ原本トヲ比較致シマスレバ、定款ノアリ方ガ分リマスカラ、ソレ等ノ點カラ考慮致シマシテ、之ヲ原始定款ダケニ限定シタノデアリマス

○佐竹委員 百八十六條第一項第六號ノ「會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名」トアリマスガ、此改正案ノ二百四十六條ノ場合ヲ指スノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 御指摘ノ第六十八條第一項ノ第六號ト第二百四十六條トハ、其性質ニ於テ相似タルモノデアリマスルケレドモ、其モノ自身ハ違フノデアリマス、御承知ノ通りニ第六十八條第一項第六號ハ、所謂財産引受ト云フモノデアリマスルシ、ソレカラ第二百四十六條ハ事後設立ト謂ハレルモノデアリマス、唯此二ツハ、二ツソレ自身ハ異ッテ居リマスルケレドモ、現物出資ト相似テ居ル、而シテ現物出資ノ規定ノ適用ヲ免レル爲ニ、是ガ惡用サレルト云フコトニ付テハ同様デアリマスカラ、是等二ツニ付テソレノ規定ヲ新設シタノデアリマス

○佐竹委員 其性質ニ於テ殆ド似通ッテ居

ルヤウデアリマスガ、二百四十六條ノ場合ハ「資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス」トアツテ、相當ノ制限ガ加ッテ居ル、所ガ百六十八條第一項第六號ノ場合ニハ、何等ノ制限ガ加ッテ居リマセウガ、二百四十六條ト對比致シマシテ、何カソコニ弊害ヲ生ズル虞ハナイノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 財産引受ノ場合ハ御承知ノ通りニ設立前ニ斯様ナ引受ヲ爲ス場合デアリマス、デアリマスカラソレハ定款ニ明ニシテ居ル、サウシテ檢査ヲ受ケル項目ノ一ツニ致シタ次第デアリマス、又第二百四十六條ノ場合ハ會社成立後ノ場合デアリマシテ、會社成立後ノ總テノ財産引受ニ付テ申スノデハナク、斯様ナ此處ニ掲ゲマシタヤウナモノニ付テハ、特ニ特別決議ヲ必要トスルト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、詰リ會社成立ノ前後ニ付キマシテ、斯様ナ相違ガ自ラ出テ來ルコトト存ズルノデアリマス

○佐竹委員 サウ致シマスト、百六十八條一項六號ノ場合、此「約シタル」トアルノハ發起人ト讓受人間ノ契約ヲ意味スル譯デゴザイマセウカ

○大森政府委員 御説ノ通りデアリマス

○佐竹委員 百七十五條ノ要件ヲ缺如致シマシタ時ノ株式申込證ノ效力ヲ承リタイノデアリマス、無効デゴザイマセウカ

○大森政府委員 其事ハ第九十一條カラモ窺ハレマスルガ、無効ノ積リデアリマス、但シ其無効ノ主張ノ制限ニ付キマシテハ、只今申シマシタ通りニ、第九十一條ガアル譯デアリマス

○佐竹委員 百七十五條ノ一項六號ノ場合ハ、銀行又ハ信託會社ニ限定スル御趣旨ト只今承リマシタ、所ガ例ヘバ水力電氣ノ會社ナンカラ田舎デ起シマスカラ場合ニ、其地方デ銀行、信託會社等ガナクテ隨分不便ヲ感ズル場合ガアルドラウト考ヘマス、銀行及信託會社ト限リマシタ爲ニ不便ヲ生ズルヤウナ御懸念ハナイト御考デゴザイマセウカ

○大森政府委員 只今モ申述べマシタノデアリマスガ、今日ノ實際カラ考ヘマシテ、銀行、信託會社ニ限定致シマシテ、御懸念ノヤウナ不便ハ生ジナイモノト考ヘテ居リマス、ソレカラ銀行、信託會社ニ限定スル必要ノアリマスコトハ、是亦只今申述べマシタ通りニ、其劃一ヲ期スルガ爲ニ蓋シ已ムヲ得ザル結果デアリマス

○野村委員長 第一節ニ對シテ御質疑ハナ

イト思ヒマス、第二節株式ニ移リマス

○大森政府委員 第二節株式ニ付キマシテ、順次申述べテ參リタイト存ズルノデアリマス、先ツ第二百條デアリマスルガ、此規定ハ現行法ニモアルノデアリマスルケレドモ、補充ヲ致シマシタ、即チ「額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ引受價格ヲ限度トス」ト云フコトヲ加ヘタノデアリマス、是亦現行法上解釋ト致シマシテハ此通りデアリマスカレドモ、事株主ノ責任ノ範圍ニ關スル問題デアリマスカラ、法律ニ之ヲ明確ニスルコトヲ可トシタル爲メデアリマス、次ハ第二百一條デアリマスルガ、是ハヤハリ新設ノ規定デアリマスルガ、實際上往々生ジマスル弊害ニ鑑ミマシテ、新ニ設ケタ所デアリマス、第一項ニ依リマスルト假設人ノ名義デ以テ株式ヲ引受ケル者ガ往々ニシテアルノデアリマス、詰リ全ク無イ人ノ名前ヲ用ヒテ引受ケテ居ルノデアリマス、ソレデ利益配當ナンカハ遠慮ナク取りニ參リマスルケレドモ、拂込ヲ命ズルト云フ場合ニ、假設人ノ名義ニナッテ居リマスルカラ、中々ソレニ請求スルコトガ困難デアル、不可能デアルト云フヤウナコトヲ生ジマス、左様ナ場合ニ名前ハ假設人デアリマシテモ、其本來本當ニ引受ケテ

居ル者自身ニ責任ガアルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、又例ヘバ私ガ或人ノ承諾ヲ得ナイデ、其或人ノ名前デ株式ヲ引受ケマシタ場合ニ、其責任ガ私ニ在ルコトハ固ヨリデアリマシテ、其承諾ナシニ名前ヲ使ハレタ人ニナイコトハ言フマデモナイノデアリマスカラ、其私ノ責任ヲ明ニスルガ爲ニ、之ヲ明ニシマシタ、是ガ第一項デアリマス、所ガ第二項ハソレト稍、趣ヲ異ニスルノデアリマシテ、例ヘバ私ガ中森ト云フ男ト通謀ヲ致シマシテ、中森ノ名前デ私ガ株式ヲ引受ケテ居リマス、實質ニ於テハ私ガ株式引受人デアリマシテ、中森ハ假設ノ株式引受人デアリマス、斯ル場合ニ法律ヲ以テ大森及中森ヲシテ連帶ノ拂込義務ヲ負擔セシメタノデアリマス、是ハ固ヨリ當然ノ規定デアリマシテ、會社ノ資本充實ノ爲ニ斯ル規定ヲ必要トスルコトハ固ヨリデアリマス、一面斯ル規定ヲ實體法規ニ入レマスルト共ニ、他面之ヲ防遏シマスル爲ニ、罰則ヲ設ケテ譯デアリマス、罰則ノコトハ後ノ機會ニ申述ベルコトニ相成リマセウガ、實體規定ニ斯ル規定ヲ置キナガラ、更ニ罰則デ以テ之ヲ禁壓致シマシタ所以ノモノハ、斯ルコトガ明白ニナリマスルナラバ、第二百一條デ實體上ノ責ヲ執ルコトハ	明カデアリマスケレドモ、是ハ中々明白ニナリ得ナイノデアリマス、デアリマスルカラ、之ヲ實際ニ於テ豫防シ、禁壓スル必要ガアルノデアリマシテ、即チ罰則ヲ以テ臨ンダ所以デアリマス、次ニハ第二百條ノ第二項デアリマス、是ハ實際ノ便益ニ鑑ミマシテ設ケタ所ノ規定デアリマシテ、株式共有ノ場合ニハ、株主ノ權利ヲ行使スベキ者ヲ一人定メルコトニナッテ居リマスルガ、其定メノナイ場合、共通者ニ對シテ、會社ガ通知、催告ヲ致シマスル場合ニ、其悉クノ共通者ニ對シテシナケレバナラスト云フコトニナリマスルト、是ハ極メテ煩雜デアリマス、デアリマスルカラ、其中ノ一人ニ對スル通知又ハ催告ヲ以テ足ルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、御承知ノ共同代表ノ場合ニ、其共同者ニ對シテ、二者カラ意思表示ヲスル場合ニ、是ハ同一趣旨ノ規定デアリマス、ソレニ準ジテ譯デアリマス、次ニ第二百四條デアリマス、第一項ハ御承知ノ現行法ノ第四百九條ト同趣旨デアリマス、此點ニ付キマシテハ、昨年ノ當委員會ニ於テ多數ノ御意向ト拜承致シマシタガ爲ニ、其當時ノ原案ヲ多數ノ御意向ニ從ヒマシテ、變更致シマシテ、ソレヲ今回ノ原案ニ致シタ次第デアリマス、御承知ノ通り現	行法ノ第四百九條ニ依リマスルト、株式ハ定款ニ別段ノ定メナキ時ハ、會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得トナッテ居リマシテ、茲ニ所謂別段ノ定メト云フノハ、如何ナル定メヲ謂フノデアルカ、言ヒ換レバ會社ノ承諾ガナケレバ他人ニ讓渡セナイト云フコトヲ定メルコトノミガ、茲ニ謂フ定款ノ定アルヤ否ヤト云フコトガ今日解釋上疑問ニナルノデアリマス、併シ在來先ヅ一般ニ行ハレテ居リマシタ解釋ハ、此法文ノ文字ハ多少狭キニ失スル嫌ヒハアルケレドモ、是ハ會社ノ定款デ以テ一般ニ廣ク株式ノ讓渡ヲ禁止スルモ可ナリ、又制限スルモ可ナリ、斯様ニナッテ居ルト存ズルノデアリマス、併シ第四百九條ノ文字自身ハ、制限ト云フコトニ過ギナイヤウナ文句ニナッテ居リマスルガ、詰リ第四百九條ノ現行規定ト同ジ形ノ規定ヲ、此處ニ置イテ、サウシテ解釋ハ現行規定ノ下ニ行ハレテ居ルヤウニスルヤ否ヤ、是ハ別箇ノ問題デアリマスルガ、兎ニ角現行規定ト趣旨ヲ同ジクスル積リデ、讓渡ノ制限ト云フ文字ニシテ置イタ方ガ宜イダラウ、斯ウ云フ御意向デアリマシタ、昨年ノ原案デハ禁止又ハ制限トアッタノデアリマスルガ、右多數ノ御意向ニ隨ヒマシテ、禁止ト云フ文句ヲ除イ	タノデアリマス、第二項ハ御承知ノ權利株ノ讓渡ニ付テノ問題デアリマスルガ、御承知ノ現行規定デハ、是ガ當然無効ニナッテ居リマスルケレドモ、之ヲ必シモ無効ニスル必要ガナイノデアリマスルシ、又此無効ノ規定ハ隨分脫法的ニ潜ラレ得ルノデアリマス、左様ナ關係カラ致シマシテ、本案デハ會社ニ對シ其效力ヲ生ゼザルモノトシタノデアリマス、第二百五條ハ相當重大ナル改正デアリマス、御承知ノ通りニ、今日株式ノ讓渡ハ、多ク白紙委任狀附デ行ハレテ居リマス、ソレヲ此案デハ決シテ否定シテ居ナスガ、ソレト併セテ株券ノ裏書ニ依リマシテ、株式ノ讓渡ガ出來ル途ヲ開イタノデアリマス、是ハ御承知ノ通りニ外國法ニ從ッタノデアリマシテ、外國法ノ下ニ於ケル實績ノ好イノニ鑑ミタ次第デアリマス、何ガ故ニ斯ク致シマシタカト申シマスルト、白紙委任狀附ノ讓渡デハ、讓受人ノ地位ガ必シモ安定的デハナイノデアリマス、即チ善意取得者トシテノ保護ガアリマセスカラ、其前ノ者ノ取得關係ガ種々ノ理由ニ依リマシテ取消サレマシタヤウナ場合ニ、讓受人ノ方ノ株主タル地位ガ、直グソレニ依ッテ阻害サレシマフト云フコトニナルノデアリマス、
---	---	---	---

例へば最初ノ譲渡人ノ譲渡行為、法定代理人ノ同意ノナイ未成年者ノ行為デアッテ、隨テ取消サレル、或ハソレガ盜品デアル、斯ウ云フ場合ニ、譲受人ガ全ク左様ナ事由ヲ知ラナイデ譲受ケテ居リマシテモ、其株ヲ捲上ゲテシマハレルト云フコトニ相成ルノデアリマス、デアリマスルカラ、株券ノ裏書ノ方法ニ依ッテ譲渡ノ出來ルモノトシテ、而モ株券ノ裏書ニ依ッテ譲受ケタ場合ニハ、原則トシテ善意取得者トシテノ茲ニ效力ヲ與ヘルト云フコトニスレバ、是ハ宜カラウト思フノデアリマス、斯様ナ見地カラ致シマシテ、株券裏書ノ方法ニ依ル譲渡ヲモ認メタ次第デアリマス、尤モ是ハ定款デ以テ禁止制度ヲ爲スコトヲ妨ゲナイヤウニ致シマシタ、其コトハ第二百五條ノ第一項ニ明カニナッタノデアリマスガ、第二項ニ手形法ノ規定ヲ準用致シテ居リマス、是ハ裏書ノ方式ニ付テノ規定デアリマシテ、裏書ガ斯様ナ方法デ出來ルト云フコトヲ、手形法ノ規定ノ準用デ明カニシタ次第デアリマス、次ニ第二百六條ノ第一項デアリマス、是ハ第二百五條新設ノ結果、之ニ伴ッテヤハリ新設ニナッタモノデアリマス、即チ株券ノ裏書ニ依ル記名株式ノ移轉ニ付テハ、會社ニ對抗シ得ル要件ヲ規定シタモノデアリマス、

第二項ハ現行規定ト同趣旨デアリマスガ、第三項モ新設規定デアリマス、株金ノ滯納ガアリマシタ株式ニ付テハ、會社ハ名義書換ヲ拒ンデ宜シイト云フ規定デアリマス、是ハ蓋シ實際ニ於テ斯ル規定ヲ設ケルコトハ、當然デアラウト思ヒマスガ、現行法ニ是ガ缺ケテ居リマスルガ爲ニ、ソレヲ補充致シタノデアリマス、第二百七條モ新設ノ規定デアリマス、御覽ノ通りニ株式ノ質入ニ關スル規定デアリマスルガ、現行法ハ固ヨリ株式ノ質入ヲ是認シテ居リマスルケレドモ、其基本的ノ關係ニ付テノ規定ハ、全ク缺ケテ居ルノデアリマス、之ヲ補充致シマシタノガ此第二百七條デアリマス、次ニ第二百八條デアリマスガ、從前ノ株式ヲ目的ト致シマシタ質權、是ガ其株式ガ受クベキ金錢又ハ株式ノ上ニ存スルト云フコトニ付キマシテハ、現行法デハ資本ノ減少ニ付テ第二百五條ノ五ニ僅ニ片鱗ヲ示シテ居ルダケデアリマス、固ヨリソレダケデ足ラナイノデアリマシテ、株式ノ消却ノ場合又併合ノ場合、又本案ニ於テ新ニ認メラレマシタ轉換ノ場合、總テニ通ズル問題デアリマスカラ、此二百八條ノ第一項ニ包括的ニ規定シテ置イタノデアリマス、第二項ハ是ハ株金滯納ノ場合ニ於ケ

ル處分ニ依ッテ生ズル問題デアリマシテ、御承知ノ現行法ノ失權手續ニ代ル手續ヲ本案デ設ケマシテ、其手續中ニ生ズル株式ノ處分ニ付テノ問題デアリマシテ、是亦必要缺クベカラザル所デアラウト存ズルノデアリマス、次ニ第二百九條デアリマスルガ、是ハ俗ニ申シマスル登録質ト云フヤウナモノニ該當スルモノデアリマス、御承知ノ通りニ、今日株式ノ質入ハ是認サレテ居リマスルケレドモ、質權者ガ配當金ニ掛ッテ行ク譯ニハ參ラナイノデアリマス、ト申シマスルノハ、會社ニ質入ノ事實、殊ニ質權者ノ氏名ガ分ッテ居ナイカラデアリマス、ソレデ今日、在來アリマスル所ノ株式ノ質入ヲ此法案デハ認メテ居リマスルガ、ヤハリソレト相竝ンデ會社ニ知ラセル質入、是ヲモ認メタノデアリマス、會社ニ登録シテ貰フ質入、之ヲ認メタノデアリマス、即チ此登録質ヲ致シマスルナラバ、此利益配當金、殘餘財産ノ分配ノ金、斯ウ云フモノニ對シテ質權者ガ其效力ヲ及ボシ得ルコトニ致シマシタ、普通ノ場合ニ於テ、株主ト致シマシテハ株式ヲ質ニ入レマシテ、成タケ會社ニ知ラレナイ方ガ宜イデセウ、質ニ入レルト云フコトハ必シモ自慢トスベキコトデハナイノデアリマスルカラ、會社ニ隱シテ置イ

タ方ガ都合ガ好イト思フデセウ、サウ云フ場合ニハ、在來ノ通りノ普通ノ質入デ宜イノデアリマス、併シ會社ニ知ラシテ宜シイ、斯ウ云フ場合ニハ此第二百九條ノ質入ヲスルデアリマセウ、第二百九條ノ質入ノ方ガ質權者ニ得デアリマスルカラ、斯様ナコトヲスキ好ンデスル株主モナイデアラウト云フ御考モアリマセウケレドモ、質權者ニ有利デアリマスルガ爲、主ニ左様ナ場合ニハ借金ノ利率ガ低率デ濟ムデアリマセウ、左様ナ點ヲ考慮致シマシテ、此所謂登録質ノ場合ヲモ茲ニ開イタ次第デアリマス、第二百十條ハ現行規定ニハナイノデアリマスルガ、ヤハリ現行規定ノ下ニ於テモ實質ハ斯様ナコトニ相成リマス、ソレヲ法文デ明ニシタノデアリマス、即チ會社ハ自己ノ株式ヲ取得スルコトノ出來ナイノハ勿論デアリマスルケレドモ、場合ニ依リマシテ、一時會社ノ株式ヲ取得セザラ得ナイコトガアリマス、其場合ヲ法律ニ書イテ、一時的ノ取得ヲ是認シタ譯デアリマス、併シ此一時的ノ取得ハ、要スルニ一時的ノ取得ニ止マルノデアリマシテ、永久ニ之ヲ持ツコトハ出來マセスカラ、第二百十一條ニ依リマシテ、一時的ノ取得ノ場合ニソレノ之ヲ處分シナケレバナラナイコトヲ明ニ致シマシタ、次ニ第二

百十三條以下デアリマスルガ、是ハ株金ノ
 滯納ノ場合ニ於テ、會社ノ執リ得ル手續ヲ
 規定シタノデアリマス、即チ御承知ノ現行
 規定ノ失權手續ニ該當スルモノデアリマス
 ケレドモ、所謂失權ト云フ方法ハ、本案ハ
 之ヲ避ケテ執ラナカッタノデアリマス、其相
 違ノ點ガ第二百十四條カラ現レルノデアリ
 マス、即チ催告手續ヲ踐ンデモ株主ガ拂込
 フシマセヌ場合ニハ、會社ガ進ンデ其株式
 ノ競賣ヲスルコトガ出來ル、又サウシナケ
 レバナナイト云フコトニ致シマシタ、失
 權ト云フヤウナ、如何ニモ觀念ニ囚ハレタ
 ヤウナ古い手續ヲスル必要ガナイ、會社ガ
 其株ヲ賣デシマヘバ宜イノデアリマス、
 デアリマスルカラ、會社ハ其株ヲ競賣スル
 ヤウニ茲ニ規定ヲシタノデアリマス、是ガ
 第二百十四條ノ第一項デアリマス、之ニ但
 書ヲ設ケマシテ、他ノ方法ニ依ルコトヲ認
 メマシタガ、是ハ御承知ノ通りニ競賣必シ
 モ十分ナル效果ヲ擧ゲルコトガ出來ナイノ
 デアリマス、左様ナ場合ニ、要スルニ適正
 ニ而モ高價ニ賣レサヘスレバ宜イノデアリ
 マスカラ、裁判所ノ許可ヲ受ケ或ハ信託會
 社ノ賣却ニ任セルト云ツタヤウナ手續ヲ執ッ
 テモ、宜イト云フ途ヲ拓イタノデアリマ
 ス、第二百十五條デアリマスルガ、斯ク競

賣ノ途ヲ開キマシタケレドモ、其當該株式ニ
 付テ讓渡人ガアリマシテ、此讓渡人ガ其株
 式ニ關係ヲ持ッテ居ッタノデアリマスカラ、
 其株式ノ處分ニ先立チマシテ、自分ガ再ビ
 株主タル地位ヲ得ルト云フ希望ガアリマス
 ナラバ、ソレニ之ヲ持タシムルト云フコト
 ハ結構デアリマスカラ、其途ヲ拓イタノデ
 アリマス、即チ讓渡人ガ株式ノ處分ニ先立
 チ滯納金額及ビ定款所定ノ違約金額以上ノ
 金額デ株式ノ買入ヲ申出タナラバ、會社ハ其
 讓渡人ニ申出價格デ株式ヲ讓渡ヲシナケレ
 バサナイト云フコトニ致シマシタ、其次
 ハ第二百十六條デアリマスガ、株式ノ競賣ヲ
 シテモ到底其結果ヲ得ナカッタ場合ノ規定
 デアリマス、是亦現行法ニ缺ケテ居ルノデ
 アリマス、尤モ此株式ノ競賣ヲ致シマシテ、
 其結果ヲ得ナイト云フ時ハ唯競賣ヲヤッテ、
 ソレガ出來ナカッタ直グ此手續ニ移リ得
 ルト云フノデハ勿論ナイノデアリマス、十
 分ニ此競賣ヲ遂行シヨウト思ッタケレドモ、
 到底其結果ヲ得ナカッタ時、斯ウ云フ趣旨デ
 アリマス、第二百十八條デアリマスガ、是
 モ現行法ニ洩シテ居ル所ヲ補充シタノデア
 リマス、詰リ會社ガ右申シマシタ手續ヲ執
 ラウト致シマス場合、株券ヲ會社ニ提出ス
 ベキ旨ヲ通知シテ、詰リ競賣ヲスルノデアリ

マスカラ、其競賣ノ時ニ株券ヲ以テ競賣ス
 ルト云フコトガ便宜デアリマスカラ、株券
 ラ會社ニ取上ゲナケレバナリマセヌ、其爲
 ノ規定デアリマス、ソレカラ第二百十九條
 デアリマスガ、第二百十九條ノ第一項ハ現
 行法ニ此様ナ規定ガアルノデアリマスケレ
 ドモ、現行法ヲ更ニ明確ニ致シタノデアリ
 マス、株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル
 後二年以内ニ、會社ガ此二百十三條第一項
 ノ規定ニ依リ拂込ノ催告ヲ發シタル株金ニ
 關スルモノニ限ルトシタノデアリマス、御
 承知ノ此點ニ關スル現行法第五百十四條ノ
 規定ハ、規定ガ甚ダ粗雜デアリマシテ、趣
 旨ニ於テ或ハ斯様ナコトニナルデアラウ
 トハ思ヒマスケレドモ、其コトガ文字上極
 メテ明確ヲ缺イテ居リマスカラ、斯ウ改メ
 タ次第デアリマス、第二項ハ新設ノ規定デ
 アリマシテ、屢、先程カラ問題ニナッテ居リ
 マシタガ、發起人ノ責任ハ固ヨリ之ヲ嚴重
 ニシテ置カナケレバナリマセヌ、ヤハリ其
 一端デアリマス、第一項ニ於テハ此責任消滅
 ノ期間ガ二年ニナッテ居リマスケレドモ、
 併シ發起人ガ會社ノ設立ニ際シテ、引受ケタ
 ル株式ニ關スル限リニ於テハ、右ノ責任
 ハ五年ト云フコトニ致シマシタ、サウシテ發
 起人ガ自分ノ持株ヲ早く賣ッテ逃ゲルト云

フコトヲ、ヤハリ間接ナガラ此點ニ於テ防
 イダ次第デアリマス、次ニ第二百二十條デ
 アリマス、株主滯納ノ場合ニ於キマシテ、
 株式ノ讓渡人ガ例ノ不足額ヲ辨濟シ得ルト
 云フコトガアルノデアリマスガ、此不足額
 辨濟ノ讓渡人ノ償還請求ノ權利ハ、ドウデ
 アルカト云フコトニ付テハ、現行法ハ全ク
 其規定ヲ盛ッテ居ナイノデアリマス、デアリ
 マスカラ、解釋ニ依リマシテ、種々此點ニ
 問題ヲ生ジ、又實際ニ於テ紛爭ヲ醸シタコ
 トガアルノデアリマス、デアリマスルカラ
 其後者ニ對スル償還ノ請求ニ付テ、第二百
 二十條ニ規定ヲ致シタ次第デアリマス、第
 二百二十一條モ今日屢、起リマスル時弊ニ付
 テ、之ヲ是正スル爲ニ設ケタ規定デアリマ
 ス、株金ノ拂込期日後ニ株式ヲ讓渡シマシ
 テ、以テ拂込ノ義務ヲ回避セント圖ル者ガ
 往々ニシテアルノデアリマス、左様ナ者ニ
 對シテ株主ト連帶シテ株金ノ拂込ノ義務ヲ
 負フト云フコトニシテ、資本充實ノ確實ヲ
 期シタ次第デアリマス、次ニ第二百二十二
 條デアリマスルガ、是亦相當重要ナル改正
 規定デアリマス、是ハ廣ク異種類ノ株式ヲ
 認メタ基本ノ規定デアリマシテ、或ハ優
 先株、或ハ後配株、ソレ等ニ付テ廣ク種類
 ノ變ッタ株式ヲ設ケテ宜イト云フコトヲ、

第一項デ明ニシタノデアリマス、而シテ此異種類ノ株式ノ異種類タル所以ハ、何處ニ存スルカト云フコトハ、第一項デ明確ニナツタノデアリマス、即チ利益配當ノ割合、利息ノ配當ノ割合、殘餘財産分配ノ割合ニ付テ、種類毎ニ異レル定ラシテ宜シト云フコトニ致シタノデアリマス、即チ異レル是等ノ定ヲ爲サレタ所ノモノ、即チ異種類ノ株式デアリマス、第二項ハ之ニ牽聯致シマシテ、之ヲ補充致シマシタ規定デアリマシテ、第一項ハ専ラ株主ノ財産的利益ノ方面ニ著眼ラ致シマシテ、異種類ノ標準ヲ定メタノデアリマス、サウシテ異種類ノ株式ガ出來マスルナラバ、定款ニ別段ノ定ノナイ場合デモ、増資、減資、合併ノ決議等ニ依ッテ、新株ノ引受ナリ、株式ノ併合ナリ、消却ナリ、又ハ合併ニ因ル株式ノ割當ニ關シマシテ、ソレノ種類ニ應ジテ各別ノ定ラシテモ宜イト云フコトヲ明ニ致シマシタ、譬ヘテ申シマスルト、普通ノ株ヨリモ高率ヲ以テ配當ヲ受ケル株ハ、言フ迄モナク優先株デアリマス、此優先株ニ付テ定款ニ別段ノ定ガナイ場合デモ、例ヘバ増資ノ時、新株ノ割當ヲ先ヅ優先株ノ株主ニ定メルノダト云フコトヲ、其決議デ定メテモ宜シイト云フヤウナ種類ノコトヲ、第二項ニ規定

ラシタノデアリマス、次ニ第二百二十四條ノ第三項デアリマスルガ、是ハ第一項、第二項ハ現行規定ニアル所デアリマシテ、會社カラ株主ニ對スル通知、催告ハ株主ノ名簿ニ記載シタ株主ノ住所ニ宛レバ宜シイ、又其者ガ自分ノ住所デナク、會社ニ特ニ通知シタ所ガアリマスナラバ、其處ヘ宛テ、モ宜シイ、而シテ左様ナ發送ヲ致シマスナラバ、ソレ等ノ通知、催告ハ通常其到達スベカリシ時ニ到達シタモノト看做スト云フ規定ガ、既ニ現在御承知ノ通りアルノデアリマス、唯此規定ガ株式申込人、株式引受人、從前ノ株主、株式ノ譲渡人、ソレカラ質權者ニ對スル通知、催告ニ關スル關係ニ於テハ、漏レテ居ルノデアリマス、デアリマスルカラ實際ニヤハリ不便ヲ感ジテ居リマシタ、ソレヲ補充シテ擴張致シマシタノガ、此第三項デアリマス、次ニ第二百二十九條デアリマス、是亦重要ナル新設ノ規定デアリマシテ、株券ノ裏書ニ關スル規定ガ出來マシタ結果デアリマス、株券ノ裏書ニ依ル讓渡ニ付キマシテハ、第二百五條ニ其規定ガアリマシテ、第一項デ其途ヲ開キ、第二項デ手形法ヲ準用致シマシテ、裏書ノ方式ヲ明ニ致シマシタ、此第二百二十九條ハ株券ノ裏書ニ依ル株式ノ讓渡ニ付テノ效

力ヲ規定シタノデアリマシテ、其效力ニ付テハ小切手法ノ第二十一條ヲ準用致シマシタ、小切手法ノ第二十一條ハ、御承知ノ通り善意取得者ヲ保護スル規定デアリマス、デアリマスカラ、株券ノ裏書ニ依ッテ株券ヲ取得シマシタモノハ、第一項ニ依リマシテ善意取得者トシテノ法律上ノ保護ヲ受ケルノデアリマス、唯此場合ニ第二項ノ緩和的規定ヲ附加致シマシテ、即チ株主ノ名簿ニ記載ノアル株主ノナシタ裏書ガ、即チ第一裏書デアリマス、是ハ眞正デナカッタ、嘘デアッタト云フ場合ニ、會社ニ付テ調査シタナラバ、其眞偽ガ能ク分ッタデアラウト云フモノデアリシナレバ、其場合ニハ善意取得者トシテノ保護ガナイノデアリマス、詰リ第一裏書ガ嘘デアッタト云フ場合、第一項ダケナラバ第一裏書ガ嘘デアリマシテモ、讓受人、詰リ最後ノ取得者ガ善意取得者トシテノ保護ヲ受ケルノデアリマスケレドモ、第二項ニ依リマシテ、第一裏書ガ嘘デアッタ場合ニ、若シ會社ニ就テ調べタナラバ、其嘘デアッタコトガ直グ分ッタデアラウト云フ事實關係ニ於テハ、善意取得者トシテノ保護ガナイト云フコトニシタノデアリマス、ナゼ斯様ナ緩和的ト申シマスカ、或ハ制限的ト申シマスカ、第二項ヲ

置イタカト申シマス、此株券ノ裏書ニ依リマシテ取得シタ者ガ、善意取得者トシテノ保護ヲ受ケルト云フ此規定ニ付キマシテハ、當業者一般ハ之ヲ甚シク歡迎シテ居ッタノデアリマス、又當業者カラノ要求モアッタノデアリマスルガ、ヤハリ其當業者ノ希望ナリ要求ノ中ニ、斯ル制度ハ全ク新シイモノデアルカラ、一躍シテ總テノ場合ニ悉ク善意取得者トシテノ保護ヲ與ヘルコトハ如何カ、詰リ第二項ノヤウナ制限ノ下ニ之ヲ是認シテ貫ヒタイト云フコトデアリマシタ、成程尤ナコトデアリマシテ、我國ニ於ケル初メテノ立法デアリマスノデ、一足飛ニ進ムト云フコトハ、是ハ考ヘル餘地ガアラウト存ジタノデアリマス、左様ナ關係カラシテ、第二項ノ制限的ナ規定ハ、是ハ全ク實際上ノ見地ニ考慮ヲ拂ッタ結果デアリマス、次ニ第二百三十條デアリマスガ、是亦新設ノ規定デアリマス、御承知ノ通りニ株券ニ付キマシテハ公示催告、除權判決ノ規定ガ適用ニナツテ居ナイノデアリマス、デアリマスカラ株券紛失ノ場合ニドウナルカト云フコトニ付テハ、現行法上甚シイ疑ガアッタノデアリマス、通例ノ場合ニ、會社ガ會社自身デ調査ラシテ居リマシテ、紛失ト認メタ場合ニ、新ニ株券ヲ交付シテ居リ

簿ニ記載スル要求ガ出來ルノデアリマス
ガ、其間ニ於テ幾ラカ時間ガアル譯デアリ
マス、幾ラカ時間ガアリマスカラ、株主名
簿ニマダ記載サレテ居ラスケレドモ、裏書
ニ依リ譲受ケタ者ガアルコトガ豫想シ得ル
ノデアリマス、ソレガ轉々ト行ッテ株主名簿
ニ記載サレテ居ル人ト違ッタ人ニ配ラレル、
二、三、四ト云フ後者ハ善意デ取得シテ居
リマス、第一ノ場合ノミニ何カ瑕ガアル、
スツカリ調査シタナラバ皆違ッタ名前ノ人
ガ裏書サレテ居リマスカラ、サウ云フ場合
ニ保護サレルノデアルカドウカ、ソコニ複
雜シタ關係ガ生ジテ來ルヤウニ考ヘマス
ガ、其點ノ御説明ヲ御聞キシタイ

○大森政府委員 詰リ第一裏書ガ嘘デア
ル、サウシテソレガ容易ニ嘘タルコトヲ發
見セラレルヤウナ趣旨程度ノモノデアッタ
場合ニ、其嘘タルコトヲ知ラズシテ甲カラ
乙ニ移リ、丙ニ移リ、丁ニ移ル、最後ノ所
有ヲ丁ト致シマス、丁カラ見レバ全く知
ラナイノデアリマス、デアリマスカラ第二
項ノ規定ハ丁ニ取ッテハ氣ノ毒ナコトニナリ
マス、併シ其ノ裏書ノ最初ノ第一ノモノガ嘘
デアッタ、而モ其嘘ガ其當時調ベタナラバ容易
ニ分ツタ程度ノモノデアラナラバ、之ヲ保護シ
ナイノガ宜イ、斯ウ云フ趣旨ナノデアリマス、

詰リ株主名簿ニ書イテアル株ヲ保護シタ方
ガ宜イ、斯ウ云フ譯デアリマス、例ヲ以テ能ク
アルコトヲ申シマスルト、株主名簿ニ名前
ヲ書イテアル株主、是ハ今會社ニ對シテ株
主ナリト主張シ得ル株主デス、此株主ガ印
章ヲ盜マレタ、サウシテ裏書ハ自分ノ意思
ニ反シテ、固ヨリ出來テ居ル印章ヲ盜捺ニ
依ッテ、ソレヲ甲、乙、丙、丁ト轉々トシテ
行ッタ、其場合ニ印章ヲ盜マレタ株主ノ權利
ヲ保護スベキデアルカ、轉々トシテ知ラズ
シテソレヲ持ッテ居ル丁ノ權利ヲ保護スベ
キデアルカ、茲ニ問題ヲ生ズル譯デアリマ
ス、第一項ダケ行ケバ丁ノ權利ヲ保護シ
ナケレバナリマセヌケレドモ、ソレハ株主
ニハ氣ノ毒ナ話デ、其場合ダケハ株主ヲ保
護シヨウト云フ趣旨カラ、第二項ヲ置イタ
ノデアリマス、是ハ當業者一般ノ希望デア
リマシタコトハ、前申述ベタ通りデアリマ
ス

○仲井間委員 マダ能ク私ノ御問シテ居ル
趣旨ガ徹底サレテ居ナイヤウニ考ヘラレマ
ス、ソレダカラ先キカラ其譲渡人モ知ラナ
ケレバ譲受人モ知ラナイ場合ヲ言フノデア
ルカト云フコトヲ御聽キシタノハソコデア
リマシテ、是ハ會社ニ就キ調査ヲ爲サバト
言ッタ所ガ、何ノ調査カト言ヘバ結局株主名

簿ヲ調査スル譯デアル、株主名簿ニハ仲井
間ト書イテアル、仲井間ノ住所、氏名ガ書
イテアルノデ、譲渡人ハ仲井間ダト斯ウ稱
シテ偽造スルノデアリマスカラ、譲渡人カ
ラ言ヘバ不明ノ人ダト云フコトニナル、相
手方ハ本當ニ知ラズニ、眞正ナル裏書ニ
依ッテ譲受ケタモノダト初メハ信ジテ居ル、
會社ニ依ッテ調査ヲ爲シテモヤハリサウ考
ヘル、サウ云フ風ニ考ヘラレルノデアリマ
スガ、ドウモ其點ガ私ノ質問ノ説明ニハナッ
テ居ナイヤウナ氣ガ致シマスガ……

○大森政府委員 會社ニ就テ調査ヲ爲シタ
ナラバ、眞偽ガ判別シタデアラウト云フノ
ハ、其偽造ノ程度ヲ客觀的ニ現ハシタ趣旨
デアリマス、デアリマスカラ其取得者ガ調
査ヲシニ行ク必要モナク、シニ行カナカッタ
コトニ付テ過失アリト云フノデハナイ、最
初ガ偽造デアッテ、其偽造タルヤ、容易ニ分
ルヤウナ性質ノ偽造デアッタリセバ、ト斯ウ
云フ意味デアリマス

〔速記中止〕
○仲井間委員 二百二十九條ノ第二項ニ付
テ、モウ一應御尋致シタイノデアリマスガ、
此第二項ノ中ニ「會社ニ就キ調査ヲ爲サバ」ト
云フコトハ客觀的ニ見テ偽造デアルト、斯
ウ云フ風ニ判定シ得ラレル場合ヲ指シタモ

ノデアリマスガ、若シ客觀的ニ見テ偽造デ
アルト云フ風ニ判定サルベキコトガ相當デ
アルト致シマスナラバ、此裏書ニ依ッテ譲受
ケマシタル譲受人ハ、主觀的ナ判斷ニ依ッテ
譲受ヲ信用シタモノダト思ハレマスガ、左
様致シマス、其規定ノ緩和ノ趣旨ハ、主
觀的ニ見テ信用サルベキ裏書デモ、客觀的
ニ見テ妥當デナイト云フ場合ニハ、主觀的
ト客觀的トノ對照ニ依ッテ、之ヲ保護シナイ
トカスルトカ云フ風ニ、區別サレルヤウニ
考ヘラレマスガ、其點ヲ少シク分リ易イヤ
ウニ詳シク御説明ヲ御願シタイと思ヒマス

○大森政府委員 第一項及ビ第二項ノ關係
ハ、全ク御説ノ通りト存ズルノデアリマス、
詰リ最後ノ取得者ハ固ヨリ善意デナケレバ
ナラナイノデアリマス、是ガ本當ノ裏書ダ
ト信ジテ取得致シマス、然ルニ其裏書ノ一
番最初ノモノ、第一裏書ガ嘘デアル、ソレ
ガ客觀的ニ容易ニ分リ得ル程度ノ嘘デア
ル、斯ウ云フ場合ニハ、善意デアリマスケ
レドモ、最後ノ取得者ヲ保護シナイト、斯
ウ云フ規定デアリマス、即チ右申シマシタ
場合ニ、眞正ノ株主、即チ偽造ヲサレマシ
タ其被害者タル株主ヲ保護スルカ、善意ニ
結局ソレヲ取得シマシタ取得者ヲ保護スル
カ、何レカニ相成ル譯デアリマス、併シ第

一裏書が偽造デアッテ、其偽造が客觀的ニ見テ容易ニ分ル程度ノモノデアッタリセバ、其客觀的標準が具備セラレルヤウナモノデアルナラバ、本當ノ株主、即チ被害者タル株主ヲ保護スルノデアル、善意ノ取得者タルモノヲ保護シナイト、斯様ナ趣旨ニ規定ラシタノガ第二項デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○仲井間委員 サウ云フ御趣旨デアリマスカラバ此「會社ニ就キ調査ヲ爲サバ」ト云フ文句ヲ適當ナ客觀的ニ見テ眞偽ヲ判斷シ得ラレルヤウナ文句ニ變ヘタ方が、此解釋ヲ一定スルコトニ付テ便利デアルト思フノデアリマスガ、何トカ文句ヲ變ヘラレル方法ハアリマセスカ

○大森政府委員 稍、議論ニ傾キヤウデ恐縮デアリマスガ、私共ハ「會社ニ就キ調査ヲ爲サバ其ノ眞偽ヲ判別スルコトヲ得ベカリシモノ」斯ウ云フ文字ヲ不可分のニ一氣ニ讀ミマスルト、別ニ誤解ハナイモノト考ヘテ居リマス、難シイ文句ダト云フ御非難ハアリマセウケレドモ、能ク讀ンデ見マスと、左程ニ誤解ヲ生ズル程度ノモノデハナイカト存ジテ居ル次第デアリマス

○仲井間委員 「客觀的ニ其ノ眞偽ヲ判別スルコトヲ得ベカリシ」ト云フ風ニ直シテハ……

○大森政府委員 御言葉ヲ返シテ恐縮デアリマス、文句ハ客觀的ニ云々ト書キマスヨリモ、法文トシテハ原案ノ方ガ宜クハナイカト存ズルノデアリマス、法文デナシニ、説明的文句トシテハ御示シノ方ガ宜イデアリマセウ、唯法文ノ文句ニハ——理由ノナイコトカモ知レマセスケレドモ、或ル種類ノ書キ方ヲ尊ブ結果、斯様ナ工合ニナッタモノト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○仲井間委員 甚ダ諄イヤウデアリマスルガ、此「會社ニ就キ調査ヲ爲サバ」ト云フ文句ガ客觀的ナモノデアルト云フヤウニ、解釋ヲ一致セシムルヤウナ何カ用語ノ例ガ外ニアルノデアリマセウカ、是ハ實際ノ裁判例等ニナリマスル際ニ問題ヲ生ズル場合ニハ、解釋上ニ於テ「會社ニ就キ調査ヲ爲サバ」ト云フコトヲ、客觀的ニ見テ眞偽ガ判明シ得ルト云フヤウニ解釋ヲ持ッテ行クト云フコトガ、甚ダ疑問視セラレルノデ、諄ク申上ゲマスガ、ソコガドウモ納得ガ行キ兼ねルノデアリマスガ……

○大森政府委員 私モ諄ク御言葉ヲ返スヤウデ恐入リマスガ、若シ客觀的ニト云フヤウナ文字ヲ使ヒマスと、總テノ方面ニ互ッテ漏レナク調査ヲシテ云々ト云フコトニナリマセウ、併シ左様ナ總テノ方面ニ漏レナク

調査ヲスルト云フヤウナコトヲ必要トスルナラバ、株式ノ流通性ニ對シテ相當ノ阻碍ヲ來スモノト存ズルノデアリマス、デスカラ客觀的デハアリマスケレドモ、唯會社ニ就テ調べサヘスレバ分ルノダト云フ程度デアル、斯ウ云フ趣旨デアリマスカラ、廣ク客觀的ト云フ文字ガ使ヘナイノデアリマス、客觀的ニハ相違ガナイガ、何處ニ調べニ行ッタラ分ルカ、會社ニ行ケバ分ルノダ、其位ノ程度ノモノデ宜シイ、斯ウ云フ趣旨ノモノデアリマス

○仲井間委員 極メテ大切ナ所デアリマスカラ、モウ一遍御伺シタイ、客觀的ト云フコトニ付テハ能ク分リマシタ、客觀的ノ中デ全部デハナイ、客觀的ノ中デ會社ニ就キ調査ヲ爲ス位ノ程度デ宜シイト、普通ノ客觀的ヨリモ隨分讓受人ヲ保護サレテ居ル譯デアリマス、其點ハ能ク分リマシタ、然ラバ此法文ノヤウニ、假ニ會社ニ就テ調査ヲ爲シタ場合、實際上爲シタノデハナクシテ、會社ニ就キ調査ヲ爲スコトヲ豫想スルノデ

ス、今ノ懇談ニ於ケル例ヲ引用シタイト思ヒマスガ、仲井間ト云フ名前ヲ乙ガ冒用致シマシテ、甲ニ或ル株券ヲ讓渡シタ場合デアリマス、其乙ナル者ガ甲ニ對シテ讓渡ヲスル際ニ、讓受人デアリマスル甲ガ會社ニ

就イテ調査ヲ爲スト云フコトハ、ドウ云フコトヲ爲スカト云フト、此株券ハ仲井間ト云フ者ノ株券デアアル、今度讓受ケルノデアアルガ、ドンナ者カ、或ハドウ云フ額付ヲシテ居ル男デアアルカ、ドウ云フ調査ヲシテ此男ガ仲井間デアアルノカ、乙デアアルノカト云フコトヲ甲ガ調査スルノカ、ドウ云フ方法デ調査スルカ、調査ヲスレバ直チニ偽造デアルトカ、或ハ眞正ナモノデアルトカ云フ判別ノ付ク程度ノ調査ト云フコトハ、具體的

ノ場合ニ中々困難デハナイカ、相手方ノ名前ヲ知ラナイ初メテノ人ナラバ、此人ガ仲井間デアアルカ、乙デアアルノカ、調査ヲシタ所デ、中々額付ハドンナ者デ年頃ハドンナ者デアルト云フコト聞カナイ以上ハ、眞正カ偽造カ、ハッキリシナイト思フ、サウ云フヤウナ方面ヲ含ムノデアアルカ、他ノ又調査ヲ豫想サレタノデアアルカ、其點ヲ明ニセラレタイ

○大森政府委員 甲ナリヤ乙ナリヤ額付デ調べルト云フノデハナイノデアリマス、會社ニ預ケテアリマスル印章、或ハ署名、ソレ等ト詰リ名前ト印章トヲ相互ニ對照シテ分リ得ル程度ノモノデアアルナラバト云フ意味デアリマス、人物、容貌等ニハ關係ノナイコトト思ッテ、立案ヲシタノデアリマス

○仲井間委員 サウ致シマス、裏書ニ依ッテ書イテアル署名、印章等ヲ會社ニ持ッテ行ッテ對照スル、サウシマスト非常ニ今能ク分リマシタ、客觀的ノ中デ、會社ニ就キ調査ヲ爲サバ、而モ其調査ハ印鑑ヲ符合スル、署名ヲ以テ記名シタ場合ニ、ソレモ符合スル程度デアレバ結構ダト、能ク分リマシタ

○佐竹委員 二百二十條ノ償還請求デアリマスガ、是ハ利息竝ニ費用ノ請求ハ出來ナイト云フ趣旨デゴザイマス

○大森政府委員 是ハ費用ハ附カナイト存ズルノデアリマス、唯普通ノ償還請求デアリマスカラ、所謂裁判上能ク附ケマス損害金、是ハ勿論含マレルモノト考ヘテ居リマス

○佐竹委員 手形ノ償還請求ノ場合ニ於キマシテハ、利息、費用、損害金等モ償還請求ノ出來ルコトニナッテ居ル、只今ノ御説明ニ依ルト、損害金ノ請求ガ出來ルトアリマスガ、二百二十條ニハ「不足額ヲ辨濟シタルトキハ其ノ後者中前條第一項ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者及其ノ後者全員ニ對シテノミ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得」トアッデ、不足額ノミニ限定セラレテ居ルカノ如ク見ラレルノデゴザイマス、損害金ヲ請求スル所ノ根據ハ、何處ニアルノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 此償還請求權ヲ行使シマス其履行期ニ付キマシテハ、別ニ規定ガナイノデアリマスガ、請求シタ時カラデアラウト解セラレマス、サウスルト請求後、例ヘバ判決執行濟ニ至ル迄ノ損害金ハ、固ヨリ請求出來ル趣旨ダト思フノデアリマス、私ノ申上ゲタ損害金トハ、其意味ノ損害金デアリマス、償還請求權其モノニ付テノ既往ノ損害賠償ノ意味デ、申上ゲタノデアリマス

○佐竹委員 第二百六條第二項ニ「前項ノ場合ヲ除クノ外記名株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ株券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ」トアル、所ガ第二百五條ニハ手形法ノ十二條、十三條、十四條第二項ガ準用サレテ居ル、詰リ白地裏書ノ規定ガ準用サレテ居リマスノデ、其白地裏書ノ場合ニ於テハ、二百六條第二項ニ基イテ、株券及ビ株主名簿ニ所得者ノ氏名及ビ住所等ヲ記載シナイ爲ニ、會社及ビ其他ノ第三者ニ對抗スルコトノ出來ナイ場合ガ出テ來ルト考ヘマス、斯ウシタ場合デモ、ヤハリ取引ノ當事者以外ノ他ノ交付者ニ償還請求ヲスルコトニ付テ何等差支ナイモノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 只今御指摘ニナリマシタ第二百六條第二項ノ場合ハ、株券ノ裏書ニ依ラナイ場合デアリマス、詰リ現行法ノ下ニ於テ認メラレル株式讓渡ノ場合デアリマシテ、此點ハ現行法通り茲ニ存置シタノデアリマス

○一松委員 本日ハ此程度ニ於テ終了致シマシテ、此株式ノ點ニ付テハマダ質問ガ段々アラウト思ヒマスカラ、明日更ニ質問ヲ繼續スルコトニシテ、今日ハ此程度デ散會セラレンコトヲ望ミマス

○野村委員長 別ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○野村委員長 ソレデハ今日ハ此程度デ散會致シマス、明日ハ午前十時カラ開會致シマス

午後三時十三分散會

昭和十三年三月十二日印刷

昭和十三年三月十三日發行

衆議院事務局

印刷者 內閣印刷局